

鹿児島市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート (令和3年度実績)

基本目標1(積極戦略1)	しごとで活力を「つくる」	・・・・・・・・P1
基本目標2(積極戦略2)	結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	・・・・・・・・P11
基本目標3(積極戦略3)	まちの魅力を「みがく」	・・・・・・・・P21
基本目標4(適応戦略1)	ひと・まちを多彩に「つなぐ」	・・・・・・・・P30
重点戦略1～4		・・・・・・・・P38

基本目標

1 しごとで活力を「つくる」

検証シート総括表 (R3年度)

<概要>	
(1) 評価(数値目標・KPI) a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

[数値目標]

指標	基準値	目標値 (R3)	単位
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人

H28実績

実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	意見 (R3)	R2参考 (実績値)	R2参考 (評価)
27,279 *	-58.2%	c	A	27,279 *	c
274,569 *	-75.6%			274,569 *	

根拠統計等
(国)経済センサス
(国)経済センサス

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

[重要業績評価指標]

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位
(1) 地域産業の競争力強化(業種横断的取組)					
①新事業・新産業創出の支援	1	新たなビジネス展開に取り組む事業者数	(H26) 8	127	事業者 (7年間)
		本市の補助金を活用した新たなビジネス展開の事業化率	(H28) 36	60	%
②経営改善の支援	2	産業振興、創業支援、新事業展開支援資金の利用件数	(H26) 1,317	1,350	件
③人材の確保	3	首都圏等からのクリエイティブ人材の移住者数	-	42	人 (6年間)
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)					
①商業・サービス業の活性化	4	空き店舗等の再生などによる新規就業者数	-	27	人 (6年間)
②ものづくり産業の活性化	5	本市の事業活用による商談成約件数	(H26) 11	357	件 (7年間)
③農林水産業の活性化	6	本市支援による新規就農者数	(H26) 5	63	人 (7年間)
(3) 若い世代をはじめとする雇用機会の拡大					
①創業・第二創業への支援	7	本市支援による新規創業者数	(H26) 36	252	者 (7年間)
②企業立地の推進	8	企業立地件数	(H26) 7	49	件 (7年間)
③若者、女性、高齢者等の活躍促進	9	本市の助成金を活用して雇用される人数	(H26) 426	2,882	人 (7年間)

H28実績

実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	意見 (R3)	R2参考 (実績値)	R2参考 (評価)
138	108.7%	c	A	127	c
36	0.0%			40	
527	39.0%	c	A	308	c
39	92.9%	a	A	31	b
25	92.6%	a	A	19	b
307	86.0%	b	A	285	a
65	103.2%	a	A	53	a
247	98.0%	a	A	208	a
49	100.0%	a	A	42	a
2,712	94.1%	a	A	2,331	a

根拠統計等
(市)事業実績

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

数値目標及び主な施策やKPIの進捗を踏まえた全体の評価

しごとで活力を「つくる」の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>数値目標「事業所数」及び「従業者数」については、あまり達成されていない。事業所数については、市内で大半を占める小規模事業者が経営不振や後継者不足などを要因として減少している傾向が全国で見られ、本市も同様の状況にあると考えている。また、従業者数については、生産年齢人口の減少の影響によるものと考えている。</p> <p>地域産業の競争力強化に向けた人材確保や商業・サービス業、農林水産業の活性化については、十分に達成されているとともに、ものづくり産業の活性化は概ね達成されている。一方で、新事業・新産業創出の支援や経営改善の支援にかかるKPIについては、あまり達成されていない。</p> <p>また、創業・第二創業への支援や企業立地の推進、若者・女性・高齢者等の活躍促進などに取り組むことで、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大は十分に達成されている。</p>	<p>新事業・新産業創出の支援について、クリエイティブ産業の育成支援や事業化された取組のPR等を進めるほか、経営改善の支援については、事業者が利用しやすい制度の設計や関係団体等と連携した周知広報に努めるとともに、事業承継セミナーを開催するなど、事業者等に対する支援に取り組む。</p> <p>その他の取組についても、引き続き施策を実施するとともに周知広報を図り、アフターコロナに向けて安定した雇用や地域の活力を生み出すまちの創造を目指し、稼げるしごとで活力を「つくる」取組を展開する。</p>

検証会議の意見
<p>数値目標については、市内で大半を占める小規模事業者の減少や生産年齢人口の減少がそれぞれ影響しているものと考えられ、あまり達成されていない。しごとで活力を「つくる」という基本目標に向けた取組の方向性は妥当であることから、引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、同感染症の影響下においても工夫を重ねながら、しごとで活力を「つくる」取組を展開していただきたい。</p> <p>また、数値目標については、今後、第2期総合戦略を推進する中で、施策の効果をより把握できる指標を検討すべきである。</p>

A

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人

H28実績	
実績値 (R3)	対目標値
27,279	-58.2%
274,569	-75.6%

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要>	
(1) 評価 (KPI)	(2) 検証会議の意見
a:十分に達成されている	A:引き続き、現状の取組を推進すべきである
b:概ね達成されている	B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
c:あまり達成されていない	C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(1) 地域産業の競争力強化(業種横断的取組)									
①新事業・新産業創出の支援	1	新たなビジネス展開に取り組む事業者数	(H26) 8	127	事業者 (7年間)	138	108.7%	c	127
		本市の補助金を活用した新たなビジネス展開の事業化率	(H28) 36	60	%	36	0.0%		40
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
ヘルスケア・環境分野における企業間・産学間等の事業化支援		新サービス等の創出に向けた取組に対する助成(2者)や、産学連携のきっかけづくりを目的としたマッチングイベント(4回)を実施したほか、経済産業省「地域新成長産業創出促進事業費補助金」を活用したプロジェクトの支援等を実施した。これらの支援の結果、ウィズコロナ・アフターコロナに向けた健康経営・働き方改革への実践的な取組や、管理栄養士監修による栄養指導型ヘルスケア食品の開発などに繋がった。 ヘルスケア分野:会員5者増、助成2件。 新事業展開分野(環境分野を含む):会員6者増							
デザイン等のクリエイティブ産業の育成支援と集積促進		「かごしまデザインアワード」にて商品化した商品等の展示会、販売会の開催を通じてデザインの重要性の啓発や製品等の競争力強化を図ったほか、デザイン・コンテンツ業の企業立地にも取り組んだ。 かごしまデザインアワード作品展への参加企業(作品)数:19社							
市が保有する統計・地理情報等のオープンデータ化の推進		本市ホームページにおいて公開している公共施設の位置情報等のデータ数を拡充した。(R2年度末72件⇒R3年度末77件) 市民のひろば等での周知広報に努めた。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、「本市の補助金を活用した新たなビジネス展開の事業化率」があまり達成されていない。これは、開発段階のものが未だ事業化されていないためであると考えている。 R3年度までの取組状況としては、新サービス等の創出に向けた取組に対する助成や、クリエイティブ産業の育成支援に取り組んだほか、オープンデータについては、本市ホームページにおいて公開している公共施設の位置情報等のデータ数を拡充するとともに、市民のひろば等での周知広報に努めた。 これらの取組により、新たな事業展開等の促進を図った。	専門家による伴走型の支援や、産学連携のためのマッチング支援、補助事業に対する継続的なサポートのほか、クリエイティブ産業の育成支援や事業化された取組のPR等を引き続き進めていく。 オープンデータについては、利用者の意見・要望を踏まえたうえで、公開するデータの充実を図るとともに、周知広報に努める。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 1-(1)-②新事業・新産業創出の支援	KPIについては、事業化率の進捗が伸び悩んでおり、あまり達成されていない。事業化には一定の期間を要することを踏まえると取組の方向性は妥当であることから、引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、事業者へのサポートに取り組んでいただきたい。 A

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	H28実績	
				実績値 (R3)	対目標値
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所	27,279	-58.2%
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人	274,569	-75.6%

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

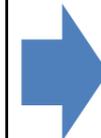
<概要>	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(1) 地域産業の競争力強化(業種横断的取組)	2								
② 経営改善の支援		産業振興、創業支援、新事業展開支援資金の利用件数	(H26) 1,317	1,350	件	527	39.0%	C	308
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
経営基盤の安定・強化に向けた融資制度の拡充		金融機関個別訪問や広報リーフレットの配布等により、経営改善の支援の取組について周知広報を図った。							
事業承継・第二創業に取り組む事業者等の支援		新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、事業承継セミナーの開催等を行う関連事業を見送った。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、あまり達成されていない。これは、R2年度において、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中小企業者向けに県が創設した新型コロナウイルス関連緊急経営対策資金(無担保・3年間無利子)に利用が集中したことから、3年度は融資の需要が縮小したものと考えている。 R3年度までの取組状況としては、創業支援資金の自己資金要件の緩和、保証料補助を引き上げる対象の拡大、新規開業支援利子補給の取扱期間の延長などを行った。また、金融機関個別訪問や広報リーフレットの配布等により、本市の融資制度による経営改善の支援について周知広報を図ったほか、事業承継セミナーを開催するなど、事業者等に対する支援を行った。 これらの取組により、経営基盤強化の促進や事業承継への支援の充実を図った。	今後も引き続き、事業者が利用しやすい制度の設計や関係団体等と連携した周知広報に努めるとともに、事業承継セミナーを開催するなど、事業者等に対する支援に取り組む。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 1-(1)-①地域産業の競争力強化



検証会議の意見
KPIについては、県が創設した新型コロナウイルス関連緊急経営対策資金に利用が集中したこともあり、あまり達成されていない。取組の方向性は妥当であることから、引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、県や経済団体、金融機関との連携を図りながら、事業者が利用しやすい制度を検討し、ニーズに合った支援となるよう努めていただきたい。
A

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人

H28実績	
実績値 (R3)	対目標値
27,279	-58.2%
274,569	-75.6%

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

<概要>	
(1) 評価 (KPI)	(2) 検証会議の意見
a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない	A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値) 評価
(1) 地域産業の競争力強化(業種横断的取組)	3	③ 人材の確保							
		首都圏等からのクリエイティブ人材の移住者数	—	42	人 (6年間)	39	92.9%	a	31
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
首都圏等のクリエイティブ人材の誘致		新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、UIJターンイベントやお試し移住の実施、移住交通費や事業所改修費を対象とした補助金の交付等の実施を見送り、専用WEBサイトの運営により施策等の情報発信のみ行った。 ・移住実績:8人							
UIJターン人材の確保支援		UIJターンによる就業・起業者の創出を図るため、東京23区の在住者または23区への通勤者が、市内に移住し、中小企業等に就業、起業またはテレワークを行っている場合に移住支援金を支給した。(21件)							
産学官連携による若者の地元定着の推進		若者の地元定着等に向けた取組の推進について、産学官が連携して検討を行う「かごしまで働きたい若者応援会議」を開催(年1回)し、出された意見を踏まえた具体的な取組の実施について、関係機関と協議を行った。(国の地方創生推進交付金を活用) また、地元の企業等が一堂に会し、中学生をはじめとする若い世代への企業等の魅力発信や情報提供を行うイベントを関係機関と連携して開催した。(参加者942人)							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、十分に達成されている。 H28年度7人、H29年度4人、H30年度6人、R元年度3人で、単年度あたりの目標値(7人)を下回っていたが、R2年度は11人、R3年度は事業一部休止にも関わらず8人と目標値を上回った。これは、新型コロナウイルス感染症の流行により地方移住の機運が高まったことによる影響とも考えられる。 R3年度までの取組状況としては、専用WEBサイトを作成し、移住クリエイターのインタビュー記事を掲載する等、戦略的な情報発信を行うとともに、UIJターンイベントやお試し移住の実施、移住補助金の交付などにおいて、本市独自の取組を行い、クリエイティブ人材の誘致に取り組んだ。 また、UIJターンによる就業・起業者の創出を図るため、東京23区の在住者または23区への通勤者が、市内に移住し、中小企業等に就業、起業またはテレワークを行っている場合に移住支援金を支給したほか、産学官連携による会議を開催し、若者の地元定着等に向けた取組を推進した。 これらの取組により、人材確保の推進が図られた。	引き続き、UIJターンイベントやお試し移住、移住補助金の交付、戦略的な情報発信を行うなど、クリエイティブ人材の誘致に取り組む。 また、東京23区の在住者または23区への通勤者が、市内に移住し、中小企業等に就業、起業またはテレワークを行っている場合に、移住支援金を支給するほか、中学生をはじめとする若い世代に地元企業等の魅力発信や情報提供を行うイベントを関係機関と連携して開催する。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 1-(1)-③ 人材の確保・育成



検証会議の意見
KPIについては、人材の確保に向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、移住に至らなかったケースを分析し、より効果的な施策となるよう努めるほか、若者の地元定着の取組について、より実効的な支援を検討していただきたい。

A

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所	27,279	-58.2%
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人	274,569	-75.6%

H28実績

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

<概要>	
(1) 評価 (KPI) a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)	4	① 商業・サービス業の活性化	-	27	人 (6年間)	25	92.6%	a	19
空き店舗等の再生などによる新規就業者数									
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
商店街等の活性化に対する支援		商店街の活性化に向けた主な支援として、イベント開催等の事業に取り組んだ20の商店街に対して助成を行った。							
リノベーションなど空き店舗等の再生を担う人材の育成		街なかリノベーション推進事業、創業者テナントマッチング事業については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ実施を見送った。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、十分に達成されている。 R3年度までの取組状況としては、商業・サービス業のさらなる活性化を図るため、商店街等に対して各種支援を行ったほか、空き店舗等の再生を担う人材を育成するため、リノベーション実践セミナー等を開催した。そのほか、H30年度から開始している創業者と空き店舗のマッチングにより空き店舗の解消を図る創業者テナントマッチング事業の活用を促進を図った。 これらの取組により、商店街等の活性化が図られた。	引き続き、商店街等への各種支援や街なかリノベーション推進事業、創業者テナントマッチング事業により、商業・サービス業の活性化や空き店舗等の再生を担う人材の育成、空き店舗の解消を図る。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 1-(1)-①地域産業の競争力強化 ③人材の確保・育成	KPIについては、商業・サービス業の活性化に向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、商店街のさらなる活性化に向けて、助成を受けていない商店街に対して積極的な情報発信を行うとともに、空き店舗になりそうな店舗の事前把握に努め、より効果的なマッチングを図っていただきたい。 A

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所	27,279	-58.2%
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人	274,569	-75.6%

H28実績

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)	5	本市の事業活用による商談成約件数	(H26) 11	357	件 (7年間)	307	86.0%	b	285
②ものづくり産業の活性化									
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R3)								
国内外での展示会や商談会等への出展等、販路拡大への支援	中小企業者等への販路拡大支援として、国内で開催される商談会等に出展する経費等の助成を5社に対して行い、22件の商談成約につながった。 なお、以下の事業は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ実施を見送った。 ・輸出チャレンジ支援事業、海外販路拡大ステップアップ支援事業、戦略的海外販路拡大支援事業								
人材や後継者の育成のための支援	主な支援策として、専門員(アドバイザー)を1社に2回派遣し、販路拡大などに関する指導を行うことにより、人材育成につながる取組を行った。								

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
<p>KPIについては、概ね達成されている。 R3年度までの取組状況としては、H28年度に国内開催の商談会等への出展経費に助成する要件を緩和したことや、R元年度から企業の海外販路拡大への取組段階に応じた伴走支援を開始したこと等により、出展支援件数、成約件数が増加したが、新型コロナウイルス感染症の影響によりR2・3年度は商談会等が減少するなど、成約件数は低調となった。 アドバイザー派遣事業については、毎年各製造業組合や金融機関、商工会議所等への制度案内を行っており、R元年度までは年10社程度に経営改善等の指導を行ったが、コロナ禍以降は年1社と低調となっている。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による移動の制限等の影響を受けたものの、可能な取組を実施することでものづくり産業の活性化が図られた。</p>	<p>事業者が利用しやすい支援制度の設計に努め、その周知広報に関係団体と連携しながら取り組むことで、アフターコロナに向けた国内外への販路拡大に資する取組への支援を実施していく。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 1-(1)-①地域産業の競争力強化</p>	<p>KPIについては、ものづくり産業の活性化に向けて、概ね達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、同感染症収束後の商談の在り方を検討するとともに、地域金融機関と連携しながら、より効果的な販路拡大への支援となるよう努めていただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所	27,279	-58.2%
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人	274,569	-75.6%

H28実績

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)	6	③ 農林水産業の活性化 本市支援による新規就農者数	(H26) 5	63	人 (7年間)	65	103.2%	a	53
主な取組内容									
本市農産物等を活用した6次産業化の推進		6次産業化研修会(2回:参加者37名)や、商品開発への支援などを通じ、4品の加工品が商品化された。その後、イベント等で商品紹介や販売促進に取り組んだことにより、生産者の所得向上が図られた。							
新規就農者の育成		就農相談や栽培研修などの就農支援のほか、農業次世代人材投資資金の交付や施設・機械の整備への助成などにより、新規就農者が12人(新規参入者2人と後継者10人)確保された。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
<p>KPIについては、十分に達成されている。 (R2年度末の改訂により、目標値を41人から63人へ上方修正) R3年度までの取組状況としては、本市農産物等を活用した6次産業化の推進については、研修会の開催や商品開発等の支援を通じ、61品の加工品が商品化された。 また新規就農者の育成については、就農相談の内容に応じて、技術研修、農地の斡旋、就農に必要な設備等への支援、国の農業次世代人材投資資金の交付などにより、7年間で65名の新規就農者が確保された。また、これらの新規就農者へは、営農指導や規模拡大等の支援を行い、地域の担い手となるように育成に努めた。 これらの取組により、農林水産業の活性化が図られた。</p>	<p>6次産業化の推進については、加工品の商品開発が可能な施設整備を行うほか、加工や販売についての研修会を開催するなど、意欲と能力がある生産者を支援し、6次産業化を促進する。 また、本市の農林水産物等を生産者団体等と連携してPRすることで、需要を喚起し、販路の拡大を図る。 新規就農者の確保・育成については、関係機関と連携し、就農相談から技術習得を経て経営開始に至るまで支援を行う。また、就農後の早期経営安定を図るため、生産基盤の規模拡大等の支援に努める。 スマート農業については、先進的な活用事例を情報提供するほか産地に適した先端技術と栽培管理体系を融合させた新たな営農技術体系を検討し、その導入実践に向けた取組を支援する。</p> <p>(本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 1-(1)-①地域産業の競争力強化 ③人材の確保・育成</p>	<p>KPIについては、農林水産業の活性化に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、新規就農者の育成に加え、既存の生産者に対する生産基盤の規模拡大等の支援に努めるほか、先進的な活用事例の情報提供や新たな営農技術体系の導入実践に向けた支援を行うことでスマート農業を推進していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所	27,279	-58.2%
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人	274,569	-75.6%

H28実績

H28実績

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(3)若い世代をはじめとする雇用機会の拡大	7	①創業・第二創業への支援 本市支援による新規創業者数	(H26) 36	252	者 (7年間)	247	98.0%	a	208
主な取組内容									
インキュベーション施設の機能強化・活用		クリエイティブ産業創出拠点施設「mark MEIZAN」の企画運営を行い、セミナーやワークショップの開催等を通じて、クリエイティブ人材の育成、コミュニティ形成、情報発信に取り組んだ。 また、「mark MEIZAN」及び、SOHO事業者を育成・支援するための拠点施設である「ソーホーかごしま」にインキュベーションマネージャーを配置して相談支援等を行い、入居者の成長促進や新規創業者の育成等を行った。							
新規創業者等の育成支援		ソーホーかごしま等へのインキュベーションマネージャーの配置によるワンストップ相談窓口の設置、創業スキル関連講座の開催などを通じて394人を支援し、39者が新規創業した。また、創業支援対象者に対する追跡調査を行い、創業状況や創業後の課題など、創業支援対象者の現状把握を行った。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、十分に達成されている。 R3年度までの取組状況としては、ソフトプラザかごしまリニューアル整備・運営基本計画に基づき、H30年度にソフトプラザかごしまをクリエイティブ産業創出拠点施設「mark MEIZAN」として整備し、同施設を活用してクリエイティブ人材の育成、コミュニティ形成、情報発信に取り組んだ。 また、「ソーホーかごしま」等にインキュベーションマネージャーを配置し、利用者の相談支援を行ったほか、創業スキル関連講座の開催等を通じて新規創業への支援を着実に推進するとともに、創業支援対象者に対する追跡調査を行い、フォロー支援も行った。 これらの取組により、新規創業者等の育成促進が図られた。	ソーホーかごしまやmark MEIZANにおいて、継続的にセミナー等を実施するとともに、創業後における追跡調査や支援体制の構築、大学と連携した事業の実施などにより、新規創業者等に対する支援に努める。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 1-(1)-②新事業・新産業の創出支援 ③人材の確保・育成	KPIについては、創業・第二創業への支援に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、新規創業者のフォローアップを行うとともに、創業に至らなかった理由を調査・分析し、より効果的な施策となるよう努めていただきたい。 A

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人

実績値 (R3)	対目標値
27,279	-58.2%
274,569	-75.6%

H28実績

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI)	(2) 検証会議の意見
a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値) 評価
(3)若い世代をはじめとする雇用機会の拡大	8	②企業立地の推進 企業立地件数	(H26) 7	49	件 (7年間)	49	100.0%	a	42
主な取組内容									
企業訪問等による立地環境のPR		雇用の創出と地域経済の活性化を図るため、企業訪問活動等を行うとともに、首都圏の展示会出展、新聞広告等により、本市の企業立地補助制度等の立地環境のPRを行い、7件(計画従業員数266人)の立地協定につなげた。 また、連携中枢都市圏構成市関係課の企業立地担当者会議の開催、企業立地HPの相互リンク、補助金の要件である新規雇用者数に圏域市民を算入するなどの取組を引き続き行った。							
市内外企業の立地等に対する支援		立地した企業に対して新規雇用や設備投資等への助成を14件行うとともに、ハローワークと連携した立地企業の企業説明会を開催するなど、立地企業の雇用確保への支援を行った。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、十分に達成されている。 R3年度までの取組状況としては、首都圏における展示会へのブース出展や企業立地促進補助制度のPR、市外企業に対するオンライン面談の活用、市内企業に対する訪問など、企業立地を推進する活動を積極的に行った。 また、連携中枢都市圏構成市で連携したPRや、立地企業の雇用確保を支援するためのハローワークと連携した立地企業の企業説明会などを実施した。 これらの取組により、企業立地の推進が図られた。	引き続き積極的な企業訪問を行い、補助制度や、都市の魅力など本市の強みをPRし、企業立地のさらなる推進に取り組むとともに、フォロー活動における情報交換等を通じて立地企業の状況把握や雇用確保への支援を行う。また、連携中枢都市圏の構成市及び県との連携を図りながら企業立地を促進する。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 1-(2)-①企業立地の推進



検証会議の意見
KPIについては、企業立地の推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、積極的な企業訪問を行い、本市の特性をPRするとともに、テレワーク等を前提とした企業の誘致や業種に応じた支援の在り方を検討するほか、連携中枢都市圏の各自治体との連携強化を図っていただきたい。 A

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所	27,279	-58.2%
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人	274,569	-75.6%

H28実績

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(3)若い世代をはじめとする雇用機会の拡大	9	③若者、女性、高齢者等の活躍促進 本市の助成金を活用して雇用される人数	(H26) 426	2,882	人 (7年間)	2,712	94.1%	a	2,331
主な取組内容									
若者の雇用促進、就業を中断していた女性や高齢者の再就職等の支援		トライアル雇用支援金の支給による若年者等の雇用促進(雇用された人数7人)のほか、シルバー人材センターへの補助を通じた高齢者の就業機会の拡大(会員4,408人)を図った。 また、経営者・管理職向けのセミナー(参加者77人)及び女性管理職を育成、応援するセミナー(参加者33人)の実施や子育て支援施設での就活応援講座(実施回数5回、参加者25人)などを実施した。(国の地方創生推進交付金及び企業版ふるさと納税制度を活用) なお、働きたい女性の就活応援事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を一部見送った。							a
障害者や高齢者、ひとり親家庭の母等を雇用した事業主に対する奨励金の支給		市内に在住する障害者、高齢者、ひとり親家庭の母など就職が特に困難な者を、継続して雇用する労働者として雇用した市内に事業所を有する中小企業の事業主に対して就職困難者等雇用奨励金を支給し、雇用促進が図られた(雇用された人数374人)。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、十分に達成されている。 R3年度までの取組状況としては、トライアル雇用支援金など本市の助成金を活用して若年者等の雇用促進が図られたほか、経営者・管理職向けのセミナーを実施するなど、女性活躍の意義についての理解を深め、その取組を促進した。 また、シルバー人材センターの会員数は年々増加傾向にあり、高齢者の就労機会の拡大が図られた。 これらの取組により、若者、女性、高齢者等の活躍促進が図られた。	引き続き、助成金の周知広報に努めるとともに、労働局等の関係機関とも連携を図りながら、若い世代をはじめ、女性や高齢者等の就労促進に努める。 また、経営者・管理職向けのセミナーや女性管理職を育成、応援するセミナーを継続的に実施し、女性の活躍促進に取り組むとともに、関係部署とも連携を図りながら、女性が働きやすい環境整備に努める。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 1-(2)-②若者、女性、高齢者等の就労支援	KPIについては、若者、女性、高齢者等の活躍促進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、助成金を活用して雇用された人の就労状況について追跡調査を行うとともに、雇用のミスマッチ解消に向けた施策を検討していただきたい。

基本目標

2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」 検証シート総括表 (R3年度)

<p><概要> (1) 評価(数値目標・KPI) a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

〔数値目標〕

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	意見 (R3)	R2参考 (実績値)	R2参考 (評価)	根拠統計等
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	31,178 *	84.3%	a	A	26,390	a	(国)人口動態統計

H27~R2実績

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	意見 (R3)	R2参考 (実績値)	R2参考 (評価)	根拠統計等
(1)若い世代の経済的安定												
①若者の就業支援	10	トライアル雇用支援金を活用して雇用される若年者等の人数	(H26) 134	888	人 (7年間)	489	55.1%	c	B	482	c	(市)事業実績
②貧困の世代間連鎖の解消	11	就労支援した若者等の就職者数	-	488	人 (7年間)	412	84.4%	b	A	358	b	(市)事業実績
(2)結婚の希望の実現												
①次世代を担う若者への意識啓発	12	ライフデザインセミナー参加者数	-	4,100	人 (6年間)	4,394	107.2%	a	A	2,924	a	(市)事業実績
②結婚への支援	13	婚活事業への参加者の満足度	-	90	%	92.4	102.7%	a	A	86.1	a	(市)アンケート
(3)妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	14	妊娠出産について満足している者の割合	(H27) 84.1	85	%	87.8	103.3%	a	A	88.5	a	(市)アンケート
(4)子育て支援の充実												
①子育て支援施設の整備・充実	15	保育所等の待機児童数	(H26) 47	0	人	82	-74.5%	c	B	216	c	(市)事業実績
		保育所等への入所率	(R元) 96.9	100	%	94.9	94.9%			96.7		(市)事業実績
②放課後における児童の健全育成	16	児童クラブの待機児童数	(H27) 414	0	人	42	89.9%	b	A	106	b	(市)事業実績
③子育て世帯への経済的支援	17	出生数に占める第3子以降の割合	(H25) 19	20.4	%	18.8 *	-14.3%	c	A	19.7 *	b	(国)人口動態統計
(5)ワーク・ライフ・バランスの普及促進	18	男女共同参画センターにおけるワーク・ライフ・バランスをテーマとした講演会・講座の受講者数	(H26) 472	2,100	人 (7年間)	2,167	103.2%	a	A	2,057	a	(市)事業実績
		時間外勤務の削減に関する取組を実施している企業の割合	(H30) 88.8	94	%	-	-			-		(市)アンケート

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

数値目標及び主な施策やKPIの進捗を踏まえた全体の評価

結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
数値目標については、十分に達成されている。 若い世代の経済的安定に向けた貧困の世代間連鎖の解消にかかる取組は概ね達成されているが、一方で若者の就業支援にかかるKPIについては、あまり達成されていない。 また、結婚の希望の実現に向けた支援、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援やワーク・ライフ・バランスの普及促進に向けた取組は十分に達成されているほか、子育て支援の充実を図るための放課後における児童の健全育成は概ね達成されているが、一方で、子育て支援施設の整備・充実、子育て世帯への経済的支援にかかるKPIについては、あまり達成されていない。	若者の就業支援については、国のトライアル雇用奨励金の活用状況等を踏まえながら市のトライアル雇用支援金の再開を検討する。 待機児童の解消については、定員増による受け皿や潜在保育士の確保に加え、保育士等の処遇改善についても、取組を進める。 子育て世帯の経済的支援については、こども医療費助成制度において中学3年生までは所得にかかわらず現物給付方式導入を引き続き要望するなど、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開する。



検証会議の意見
数値目標については、結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」という基本目標に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、特に若い世代の経済的安定や子育て支援の充実については、全国的な課題でもあることから早期改善に向けた取組の検討を行うなど、結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」取組を展開していただきたい。

A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R3年度)

H27~R2実績

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	31,178 *	84.3%

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(1) 若い世代の経済的安定	10								
① 若者の就業支援		トライアル雇用支援金を活用して雇用される若年者等の人数	(H26) 134	888	人 (7年間)	489	55.1%	C	482
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
若者の就職・起業、人材育成の促進		若者の職場定着について、関係機関と連携を図りながら状況把握に努め、トライアル雇用支援金の支給(雇用された若者7人)や高校生ステップアップセミナーの開催(参加者594人)などにより若年者の就労促進や勤労観・職業観の醸成を図ったほか、ものづくり分野の事業主への職業訓練に要する経費の助成(16人分)などを通じて人材育成を支援した。 また、若者の地元就職等に向けた取組の推進について、産学官が連携して検討を行う「かごしまで働きたい若者応援会議」を開催(年1回)した(国の地方創生推進交付金を活用)ほか、起業などに関心や意欲を持つ学生等に対する相談支援を行った。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、あまり達成されていない。 これはR元年度の国のトライアル雇用助成金の対象労働者の要件変更により、国の助成金の決定件数が減少したこと、また、R3年度はコロナ禍による財政状況を踏まえ、トライアル雇用支援金の支給対象を制限したためと考えられる。 R3年度までの取組状況としては、トライアル雇用終了後も継続雇用している事業主に対しての支援金の支給を行ったほか、高校生を対象とした就職セミナー、学生等を対象とした起業セミナーの開催など着実に進めてきた。 これらの取組により、若者の就業支援、起業支援を図った。	引き続き、若者の就業支援、起業支援に取り組むとともに、トライアル雇用支援金については、国のトライアル雇用奨励金の活用状況や、社会情勢の変化等を踏まえながら検討してまいりたい。 また、若者の職場定着については、関係機関と連携を図りながら状況把握に努め、職場定着に関する国の助成金の広報など、連携した取組を進めていくとともに、高校生や新就職者を対象に開催するセミナー等により、勤労観・職業観の醸成を図る。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 2-(1)-①若者の就業支援	KPIについては、国の助成金の決定件数の減少等により、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、トライアル雇用の活用促進に向け、ハローワークとの連携強化や企業側への周知等を進めるとともに、若者の職場定着の実態や支援制度の活用状況の把握に努め、より効果的な支援策を検討すべきである。 B

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R3年度)

H27~R2実績

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。
引き続き、切れ目のない子育て支援策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	31,178 *	84.3%

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

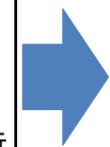
＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(1) 若い世代の経済的安定	11	就労支援した若者等の就職者数	-	488	人 (7年間)	412	84.4%	b	358
② 貧困の世代間連鎖の解消									
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
ひとり親家庭や生活困窮世帯の若者等の就労活動と子どもの学習の支援		生活困窮者等への就労支援を引き続き実施し、「生活・就労支援センターかごしま」内の生活自立支援センターとハローワーク窓口の連携により、若者等への就労支援をワンストップで行った。学習支援については、生活困窮世帯等の小学5・6年生及び中学生に、学力の向上や学習習慣の定着を目的とした学習会を、大学生や教員OB等と協力し、5月から2月まで3カ所まで延べ104回実施した。(R3年度は新型コロナウイルス感染症対策により延べ37回実施見送り) また、ひとり親家庭の就業支援として実施する講習会は、ニーズの高い医療事務講座、調剤薬局事務講座を実施(受講者33人)したほか、ひとり親家庭等総合相談会(参加者31人)において、就労相談、ひとり親自立支援相談等を行った。 子どもの未来応援事業では、子ども食堂のない地域における子ども支援のきっかけとなるよう、出張子ども食堂を開催した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、概ね達成されている。 R3年度までの取組状況としては、「生活・就労支援センターかごしま」内の生活自立支援センターとハローワーク窓口の連携により、若者等への就労支援をワンストップで行ったほか、生活困窮世帯・ひとり親家庭等の小学5・6年生及び中学生への学習支援(学習会)を、大学生や教員OB等と協力して実施した。母子家庭等自立支援事業では、医療事務、調剤薬局事務講座の実施や、ひとり親家庭等総合相談会で就労相談等を行い、就業支援を図った。 子どもの未来応援事業では、「鹿児島市子どもの未来応援プラン(子どもの貧困対策推進計画)」を策定し、子どもの貧困対策の推進を図る体制を構築した。また、子ども食堂のない地域における子ども支援のきっかけとなるよう、出張子ども食堂を開催した。 これらの取組により、ひとり親家庭や生活困窮世帯の若者等の就労活動と子どもの学習の支援が図られた。	「生活・就労支援センターかごしま」によるワンストップでの支援体制を充実するとともに、引き続き、関連施策の広報・周知を進め、関係機関と連携し、取組の推進を図っていく。生活困窮者等の就労状況についても、引き続き、追跡調査を実施する。 母子家庭等自立支援事業で実施する講習会については、ひとり親家庭や企業双方でニーズの高い資格を把握し、ひとり親の就業促進を図るため、講座内容の検討を行う。 また、子どもが生まれた環境に左右されず、夢や希望を持てる社会の実現を目指す、子どもの未来応援条例(仮称)制定に向けて、市民、関係機関との意見交換を行い、取り組んでいく。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 2-(1)-② 貧困の世代間連鎖の解消



検証会議の意見
KPIについては、貧困の世代間連鎖の解消に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、支援を行った生活困窮者等の就労状況について追跡調査を行うとともに、子どもの学習支援の充実に努めるほか、引きこもりの若者やヤングケアラーに対する支援体制を整えていただきたい。 A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 かなえる

H27～R2実績

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	31,178 *	84.3%

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜摘要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(2) 結婚の希望の実現	12	①次世代を担う若者への意識啓発	—	4,100	人 (6年間)	4,394	107.2%	a	2,924
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							a
結婚、妊娠、出産、子育てに対する気運の醸成		次世代を担う若者への意識啓発として、短大生・大学生や企業の若手社員を対象に、より幅広い若年層に向けたライフデザインセミナー(シンポジウム2回・セミナー7回)を開催し、744人の参加があった。また、市内の3高校の生徒を対象にセミナー5回を開催し、726人の参加があった。セミナー参加前後にアンケートを実施したところ、大学生・社会人では、参加者の68%が、高校生では50.3%(3校平均)が結婚に対する不安や心配な気持ちが軽減されたと回答した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、十分に達成されている。 (R2年度末の改訂により、目標値を2,400人から4,100人へ上方修正) R3年度までの取組状況としては、大学・企業等と連携してライフデザインセミナー・シンポジウムを開催し、次世代を担う若者に対し、今後のライフデザインを描けるように意識啓発に取り組んだ。また、R3年度からは、新たに高校生を対象に将来、結婚、家庭を持つことの意義や仕事などをあわせた人生設計について、理解を深めることを目的にセミナーを開催した。 これらの取組により、若者の結婚、妊娠、出産、子育てに対する気運の醸成が図られた。	引き続き、幅広い若年層へのライフプランニング支援に努めるなど、結婚、妊娠、出産、子育てに対する気運の醸成に取り組んでいく。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 2-(2)-①次世代を担う若者のライフプランニング支援



検証会議の意見
KPIIについては、次世代を担う若者への意識啓発に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、結婚等に対する男性の関心をさらに高める工夫のほか、年金や税、雇用保険などに関する実践的な情報提供に努めるとともに、対象となる市内高校の拡充を検討していただきたい。

A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)

H27~R2実績

実績値 (R3)	対目標値
31,178 *	84.3%

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要>

(1) 評価 (KPI)

- a : 十分に達成されている
- b : 概ね達成されている
- c : あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見

- A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
- B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
- C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 [実績値] 評価
(2)結婚の希望の実現	13	婚活事業への参加者の満足度	—	90	%	92.4	102.7%	a	86.1
②結婚への支援									
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R3)								a
出会いの場の提供、民間の婚活事業への支援の検討	以下のイベントを開催し、出会いの場を提供した。 出会いサポートイベント(参加者数 79人、満足度92.4%、カップル数 15組(R2 23組)) ※R3休止事業: 出会い・ふれあい企業対抗運動会開催事業								
新婚世帯等の市営住宅への入居支援	新婚・子育て世帯向け市営住宅支援事業を実施し、新婚世帯等の市営住宅への入居を支援した。 (募集戸数142戸、応募件数87件、入居戸数35戸)								
結婚相談所における結婚のあっ旋	結婚相談所を運営し、結婚希望者に出会いの場を提供するとともに、婚活応援セミナー等を実施した。 (登録者数: R2 463人→R3 474人、お見合い者数: R2 466人→R3 510人、婚約成立数: R2 12組→R3 9組)								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、十分に達成されている。 R3年度までの取組状況としては、出会いの場の提供のために、各種(趣味で出会うイベント、出会い・ふれあい企業対抗運動会、出会いサポートイベント)婚活イベントを開催した。 結婚相談所の運営を通じて、出会いの場を提供するとともに、マリサポートカフェ(少人数制婚活イベント)や、所員のスキルアップ研修、婚活アドバイザーによる専門相談サービスを開始するなど結婚を希望する男女の支援に取り組んだ。 また、市営住宅の入居者募集時に、新婚世帯等への優遇措置を講じた。 これらの取組により、出会い・結婚の支援の充実が図られた。	引き続き、新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、より効果的な方法等を含め、各種イベントの開催など、出会いの場の提供に積極的に取り組む。結婚相談所については、登録者数や婚約成立数の増加に向け、さらなる周知広報やオンラインによる婚活相談等のサービス向上に努めるほか、利用対象者を連携都市である日置市、いちき串木野市、姶良市に拡大するなど、利用促進を図り、結婚を希望する方の婚活をサポートする。 また、今後も引き続き、新婚世帯等の市営住宅への入居支援に取り組む。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 2-(2)-②結婚への支援



検証会議の意見
KPIについては、結婚への支援に向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、結婚相談所について、オンラインも効果的に活用しながら、同感染症収束後を見据えて、登録者が利用・参加しやすい相談体制を検討していただきたい。 A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R3年度)

H27~R2実績

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	31,178 *	84.3%

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(3) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	14	妊娠出産について満足している者の割合	(H27) 84.1	85	%	87.8	103.3%	a	88.5
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							a
子育て世代包括支援センターを中心とした継続的な支援		子育て世代包括支援センターでは、母子保健支援員(7名)、発達支援専門員(7名)を中心に妊娠、出産、子育てに関する相談支援、情報提供などの取組を進めた。産婦健診事業(実績:2週間健診4,016人、1か月健診4,617人)や産婦支援小児科連携事業(実績277人)に取り組み、子育て支援を行うと同時に妊産婦のメンタル支援を行った。また、産婦ケアの推進を図り、308人が延べ882日(宿泊型:107人延べ608日 日帰り型:176人延べ234日 訪問型:25人 延べ40日)利用した。							
不妊治療に対する助成		特定不妊治療について助成の拡充を行い、1,465件(R2 999件)助成した。また、不育症治療への費用を43件(R2 33件)助成した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、十分に達成されている。 R3年度までの取組状況としては、子育て世代包括支援センターの体制整備後も、母子保健支援員や発達支援専門員の配置を行うなど、センターとしての機能の強化を図ってきたところである。 また、妊産婦のメンタルケアとして、産婦健診や産婦支援小児科連携により支援の必要な対象者を地域へつなぐ体制を整えたほか、不妊治療に対する助成に係る上限額の引き上げなどの拡充を進めた。 これらの取組により、妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援の充実が図られた。	子育て世代包括支援センターの機能をさらに発揮し、関係機関と連携しながら、産後早い時期での産婦健康診査やその後の産婦支援小児科連携事業を実施するなど、実情の把握に努め、地域での切れ目のない支援の充実に取り組む。 これまで同様、妊娠期からのハイリスク家庭の把握及び支援の充実、訪問指導時の問診票等使用によるハイリスク家庭の把握に努め、産科、精神科、小児科等と連携し、支援を行う。また、不妊専門相談センターによるさらなる相談支援の充実を図る。 妊娠・出産への支援に加え、子どもの成長・発達に対する不安を軽減できるように、乳幼児健診の受診率の向上を図る。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 2-(3)妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	KPIについては、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、妊娠出産について「満足していない」と回答した理由の分析と改善に努めるとともに、ハイリスク家庭に対する支援の充実を図っていただきたい。 A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R3年度)

H27~R2実績

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	31,178 *	84.3%

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(4) 子育て支援の充実	15	保育所等の待機児童数	(H26) 47	0	人	82	-74.5%	c	216
① 子育て支援施設の整備・充実		保育所等への入所率	(R元) 96.9	100	%	94.9%	94.9%		96.7
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R3)								c
親子つどいの広場などの整備・活用	親子つどいの広場や、すこやか子育て交流館等における利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を引き続き受けており、R元年度の約6割となっているが、以前と変わらない8,456件の各種相談を受け、育児不安の軽減を図るなど、子育て支援の充実に努めた。								
認可保育所等の整備促進	第二期鹿児島市子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育所及び幼保連携型認定こども園の定員増等により、定員20人分の受け皿確保を行った。								
認可外保育施設に対する助成	認可外保育施設に入所している児童の保育環境の向上や、児童の健全な育成を図るため、認可外保育施設16施設に対し、運営費等の助成を行った。また、認可外保育施設の利用希望者に対しては、近隣施設の紹介や、認可外保育施設指導監査基準に適合しているか等の情報提供を行った。								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、あまり達成されていない。 これは、待機児童数については、保育需要が高い状況が続くなか、保育士不足により定員まで受入が出来ていない施設があること、また、入所率については保育士不足や利用申込者数の減少により、定員まで満たない施設があることが要因と考えられる。 R3年度までの取組状況としては、H29年度に西部親子つどいの広場が供用開始され、R2年度からすこやか子育て交流館や、親子つどいの広場の配置人員を増員したほか、元年度に策定した第二期鹿児島市子ども・子育て支援事業計画に基づき、認可保育所等において現在までで合計220人分の定員増による受け皿確保を行った。 また、保育士・保育所支援センターにおいては、R3年度までにマッチング数493件に対して採用決定者455人で、潜在保育士の掘り起こしに一定の成果を挙げている。 さらに、保育所等において感染症対策の徹底を図りながら保育を継続的に実施するための必要経費の助成や保育士確保を図るために保育の仕事の魅力発信イベントの実施やリーフレット・動画作成を行ったほか、新たに保育士等の賃金改善を図るため補助を行うことにより保育士等の処遇改善に取り組んだ。 これらの取組により、子育て支援施設の整備促進や地域の子育て支援機能の充実を図った。	子育て支援施設の整備・充実については、第二期鹿児島市子ども・子育て支援事業計画に基づき、待機児童を解消するため、保育所及び幼保連携型認定こども園の定員増等による受け皿確保を行う。 また、保育士・保育所支援センターによる潜在保育士の確保に加え、保育士確保に係る意見交換会や保育士を目指す学生向けのイベントを行うなど、早期の待機児童解消に向けて積極的に取組を進めていくこととし、保育士等の処遇改善についても、国の通知等に基づき取り組む。 地域の子育て支援機能の充実については、親子つどいの広場等における支援のほか、地域子育て支援センターの配置を見直し、よりきめ細やかな支援体制の充実に努めるとともに、子育て拠点支援施設職員のスキルアップや施設間の連携を図っていく。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 2-(4)-① 子育て支援施設の整備・充実

検証会議の意見
KPIについては、保育需要の高まりや保育士不足等から、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、保育士の確保に向けて、保育士の就業実態等の把握に努めるとともに、潜在保育士の掘り起こしや保育士の処遇改善をさらに進めるほか、地域によって待機児童数の偏りが生じないよう、受け皿となる保育所の拡充を図るべきである。

B

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R3年度)

H27~R2実績

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	31,178 *	84.3%

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜摘要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 一般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値) 評価
(4) 子育て支援の充実	16								
② 放課後における児童の健全育成		児童クラブの待機児童数	(H27) 414	0	人	42	89.9%	b	106
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							b
児童クラブの計画的な設置		待機児童の解消に向け、児童クラブの施設整備を行い、8か所を開設した(R2 168か所→R3 176か所)ほか、引き続き民間の児童クラブに補助を行った。 また、支援員及び補助員の報酬を引き上げ処遇改善を図るとともに、各クラブの募集情報について市民のひろばや市ホームページで周知を行うなど、支援員等の確保に向けた支援を行った。							
新・郷中教育推進事業の拡充		年次計画に基づき、市内全78小学校で放課後子ども教室を開設し、合計2,368人の児童に利用された。 (参考 令和2年度 78教室 2,002人)							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、概ね達成されている。 R3年度までの取組状況としては、待機児童解消のため、計画的にクラブの整備を進めたほか、あわせて、そこで働く支援員等の確保支援及び処遇改善なども図った。 新・郷中教育推進事業では、年次計画に基づき、市内全78校で放課後子ども教室を開設した。 これらの取組により、放課後における児童の健全育成に向けた支援が図られた。	児童クラブについては、引き続き、就学児童数や待機児童数の見込み等から、今後の利用見込みを算出し、余裕教室の活用や専用施設の設置、民間事業者による設置など、計画的なクラブの整備に取り組む。 また、支援員等の確保支援や処遇改善に努めるほか、支援員資格取得の促進や児童育成に必要な研修の実施にも積極的に取り組む。 新・郷中教育推進事業では各小学校に放課後子ども教室を開設できている。今後も、充実した学習や体験・交流活動等に取り組む。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 2-(4)-②放課後における児童の健全育成



検証会議の意見
KPIについては、放課後における児童の健全育成に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、児童クラブについて、引き続き、支援員の確保や処遇改善に努めるとともに、資格取得の促進に向けた方策を検討するほか、計画的に施設整備を進めていただきたい。 A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R3年度)

H27～R2実績

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	31,178 *	84.3%

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

＜摘要＞	
(1) 評価 (KPI) a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値) 評価
(4)子育て支援の充実	17	出生数に占める第3子以降の割合	(H25) 19	20.4	%	18.8 *	-14.3%	c	19.7
③子育て世帯への経済的支援									
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R3)								
こども医療費の助成対象の拡大(小学6年生→中学3年生)	令和3年4月から、中学3年生までの医療費助成を、市町村民税非課税世帯について、18歳まで拡充するとともに、医療機関等における窓口負担をなくして実施した。【助成実績340,554件】								
多子世帯への助成	2人以上の子どもを持つ低所得者世帯及びひとり親世帯等の子どもが保育所等に入所した場合において、国・県の制度に基づく助成を行った。 保育料(保育所・認定こども園) ・市町村民税所得割額が77,101円未満(年収約360万円未満相当)のひとり親世帯等について、第2子以降の保育料を無料にした。 ・市町村民税所得割額が57,700円未満の場合は、第1子の年齢に関わらず、第2子は2分の1、第3子以降は保育料を無料にした。 ・市町村民税所得割額が97,000円未満の場合は、満18歳未満の年長者から3人目以降の児童について、保育料を軽減した。								
就学・通学の援助、奨学資金の貸付	就学・通学の援助として、次のとおり、必要な援助・助成を行った。 ・国公立小・中学校に在籍する経済的に困窮している児童生徒の保護者に対し、学用品費や給食費等を援助 ・特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、学用品費や給食費等を援助 ・通級指導教室へ通う児童生徒を保護者が自家用車で送迎する場合の燃料代や公共交通機関を利用して付き添うための運賃を助成 ・遠距離または交通安全を理由に校区内の小中学校に公共交通機関等を利用して通学する児童生徒の保護者に対し、交通費を助成 また、奨学金及び入学一時金貸付の募集を行い、必要な貸付を行った。								
子育て世帯向けの市営住宅の整備	建替(既存住宅を解体して新築)8戸が完成し、建替6戸に着手した。								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、あまり達成されていない。これは、概ね基準値を超えて推移していたが、新型コロナウイルス感染症の流行による経済面への影響や将来への不安感等が要因と考えられる。 R3年度までの取組状況としては、子どもの保護者に対し、医療費の一部を助成したところであり、R3年4月からは、中学3年生までの医療費助成を、市町村民税非課税世帯について、18歳まで拡充するとともに、医療機関等における窓口負担をなくして実施した。 また、多子世帯への経済的負担軽減を図るとともに、保育所等を利用している3～5歳及び住民税非課税世帯の0～2歳の保育料の無償化を継続したほか、就学・通学の援助、奨学資金の貸付による保護者の経済的負担軽減や子育て世帯向けの市営住宅の整備を行った。 これらの取組により、子育て家庭の生活の安定に向けた経済的支援を図った。	今後も引き続き、子育て世帯の経済的負担軽減に努めるとともに、子育て世帯向けの市営住宅の整備を行う。 また、こども医療費助成制度は、県の補助制度であり、R3年4月から、市町村民税非課税世帯は18歳まで対象を拡充し、現物給付方式(窓口負担ゼロ)としたところである。なお、中学3年生までは、所得に関わらず現物給付方式を導入することを引き続き県へ要望していく。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 2-(4)-③子育て世帯への経済的支援	KPIについては、新型コロナウイルス感染症の流行による経済面への影響等により、あまり達成されていない。取組の方向性は妥当であることから、引き続き、同感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、医療費助成の現物支給方式の導入を積極的に進めていただきたい。

A

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを育てることができる環境を整備していかなければなりません。
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)

実績値 (R3)	対目標値
31,178 *	84.3%

H27~R2実績

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

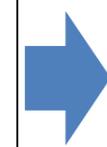
＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(5)ワーク・ライフ・バランスの普及促進	18	男女共同参画センターにおけるワーク・ライフ・バランスをテーマとした講演会・講座の受講者数	(H26) 472	2,100	人 (7年間)	2,167	103.2%	a	2,057
		時間外勤務の削減に関する取組を実施している企業の割合	(H30) 88.8	94	%	—	—		—
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							a
事業所へのワーク・ライフ・バランス推進の広報啓発		ワーク・ライフ・バランス推進への取組事例などを労働局と合同で開催するセミナー等で紹介し、事業所の意識啓発を図った。 また、経営者・管理職の意識改革プログラムを実施し、経営者等への意識啓発を図るとともに、仕事と生活を両立しやすい環境の整備を推進するため、H29年度に設立したイクボス推進同盟の周知広報に努め、同盟加盟数が増加した。 (イクボス推進同盟加盟数 R2 81企業・団体→R3 91企業・団体)(国の地方創生推進交付金を活用) ※ワーク・ライフ・バランスを目指す事業所応援事業については感染症の影響を踏まえ実施を見送った。							
男女共同参画センターにおける啓発情報誌の発行や両立支援セミナーなどの開催		男女共同参画情報誌を発行(年2回各25,000部)し、市内の中小企業その他、金融機関、理・美容院、町内会等に配布したほか、女性活躍推進に関するセミナー等を開催し、男女共同参画の形成に対する市民の理解と認識を深め、ワーク・ライフ・バランスの普及促進に努めた。(国の地方創生推進交付金を活用) ※サンエールフェスタ開催事業については感染症の影響を踏まえ実施を見送った。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、十分に達成されている。 R3年度までの取組状況としては、男女共同参画情報誌を配布し、ワーク・ライフ・バランスの広報啓発を図ったほか、アドバイザー派遣により具体的な取組支援を行うとともに、労働局など関係機関と連携を図りながら、働きやすい職場づくりが望まれる事業所に対してもより効果的な取組となるよう、セミナー開催や先進的な取組事例の情報発信を行った。 また、これまで、別々に開催していた、女性活躍推進セミナーとイクボス推進会議を合同開催し、ワーク・ライフ・バランスや女性活躍推進の先進事例や他企業の取り組みに関する情報の共有を行ったほか、イクボス推進同盟加盟企業・団体数の増加に努め、H29年11月の同盟設立時から大幅に増加(設立時32→R3年度末91)した。 これらの取組により、ワーク・ライフ・バランスの普及促進が図られた。	引き続き、労働局等関係機関と連携を図りながら、ワーク・ライフ・バランスの推進について、男女共同参画情報誌や労政広報紙等による周知・啓発に努めていく。 また、引き続きイクボス推進同盟の参加企業・団体の増加に努めるとともに、他事業と連携した取組を進めるなど、取組内容の充実を図っていく。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 2-(5)仕事と子育ての両立



検証会議の意見
KPIについては、ワーク・ライフ・バランスの普及促進に向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、講演会・講座についてオンラインによる開催を検討するほか、同感染症収束後を見据え、テレワークが導入可能な業種の把握に努め、仕事と生活を両立しやすい環境整備を推進していただきたい。 また、KPI「男女共同参画センターにおけるワーク・ライフ・バランスをテーマとした講演会・講座の受講者数」については、今後、第2期総合戦略を推進する中で、施策の効果をより把握できる指標を検討していただきたい。

A

基本目標

3 まちの魅力を「みがく」

検証シート総括表 (R3年度)

<概要>	
(1) 評価(数値目標・KPI) a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない -:評価なし	(2) 検証会議の意見 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔数値目標〕

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	意見 (R3)	R2参考 (実績値)	R2参考 (評価)	根拠統計等
宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	216.1	-272.5%	c	B	207.6	c	(市)観光統計

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	意見 (R3)	R2参考 (実績値)	R2参考 (評価)	根拠統計等
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上												
①食の都づくり	19	民間主体の新たな食のイベント数	-	6	件 (7年間)	6	100.0%	a	A	6	a	(市)事業実績
②歴史、自然等を生かした観光の振興	20	入込観光客数	(H26) 950	1,050	万人	507.1	-442.9%	c	B	511.4	c	(市)観光統計
③花と緑の回遊空間づくり	21	都市公園の市民一人当たり面積	(H27) 7.62	7.94	m ²	7.95	103.1%	a	A	7.92	a	(市)事業実績
④潤いのある都市景観の形成	22	景観形成に関する意見交換会等の延べ参加者数	-	200	人 (2年間)	105	52.5%	c	A	95	a	(市)事業実績
⑤“鹿児島ファン”の拡大	23	「友人・知人に鹿児島市を勧めたい」と思う市民の割合	(H30) 55.5	60.5	%	55.3	-4.0%	c	B	53.0	c	(市)事業実績
(2) まちなかのにぎわい創出												
①集客力・回遊性の向上	24	中心市街地の歩行者通行量	(H26) 16	17.1	万人	12.4	-327.3%	c	B	12.4	c	(市)事業実績
		カゴシマシティビューの乗客数	(H28) 18.7	20.6	万人	10.3	-442.1%			8.9		(市)事業実績
②新たな都市拠点の形成	25	JR鹿児島駅の乗降客数	(H24) 121.4	122.5	万人以上	103.3	-1645.5%	c	B	98.7	c	(市)事業実績
		「かんまちあ」で開催されるイベント数	-	120	件/年	142	118.3%			142		(市)事業実績

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

数値目標及び主な施策やKPIの進捗を踏まえた全体の評価

まちの魅力を「みがく」の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>数値目標については、あまり達成されていない。これは、<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、移動の制限や旅行控えの動きが生じたことなどによるものである。</u></p> <p>R3年度までの取組状況としては、主な施策のうち、「食の都づくり」や「花と緑の回遊空間づくり」については、取組の推進によりKPIは十分に達成されてきている。その他の施策については、「集客力・回遊性の向上」や「鹿児島ファンの拡大」を除いて、コロナ前のR元年度までは、取組の推進によりKPIは十分又は概ね達成されてきていたが、R2年度以降は感染症の影響を受け、あまり達成されていない。</p> <p>このようなことから、R元年度まで数値目標の宿泊観光客数はR3年の目標値を上回るなど十分に達成されてきていたが、感染症の拡大に伴い、R2年度以降は大きく減少した。</p>	<p>都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、オンラインの魅力創出、地域特性を生かした創造性豊かな景観の形成・活用、花や緑、公園緑地の充実に取り組み、個性豊かな資源の価値向上を図るとともに、観光客受入体制の充実や、まちなかのにぎわい創出・回遊性向上により、ひとが集うまちなか環境の充実を図るなど、引き続きひとが集うまちの魅力を「みがく」取組を展開し、「誘客力の高さ」と「滞在満足度の高さ」を兼ね備えたまちの創造を目指す。</p>



検証会議の意見
<p>数値目標については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、宿泊観光客数が大幅に減少したところであり、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、同感染症収束後を見据えた施策も検討しながら、まちの魅力を「みがく」取組を展開すべきである。</p>

B

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	216.1	-272.5%

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)＊は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 〔実績値 評価〕
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上	19								
① 食の都づくり		民間主体の新たな食のイベント数	—	6	件 (7年間)	6	100.0%	a	6
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
食品関連事業者の育成支援		R3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、新商品開発に対する補助金や商談会に関するセミナー開催等を行う関連事業を休止した。							
民間団体等が実施する食に関するイベントの拡充・促進		民間団体が実施する食のイベントとして2事業への助成を行った。(H28年度から合計6件) ①鹿児島クリスマスマーケット2021 (実施団体: 鹿児島クリスマスマーケット実行委員会、実施時期: R3年12月3日(金)～26日(日) ※H30年度選定のイベント) ②海と食の地域モデルin鹿児島 (実施団体: 海と食の地域モデルin鹿児島実行委員会、実施時期: R3年7月22日～R4年3月31日 ※R2年度選定のイベント) ※上記のイベントについては、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで開催した。 ※鹿児島の食とビールを楽しむイベント開催事業、テイクアウトキッチンinかんまちあについては同感染症拡大等の影響による中止のため助成を行わなかった。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、十分に達成されている。 R3年度までの取組状況としては、食品関連事業者の育成支援について、新商品開発に対する補助金や商談会に関するセミナーの開催等を行った。 また、民間団体等が実施する“食”のイベントの拡充・促進については、一部イベントが新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったものの、計画期間を通して目標とする6事業について支援を行った。これらの取組により、食品関連の新商品開発や販路開拓、食に関するイベントの創出が促進され“食の都”づくりの推進が図られた。	食品関連事業者の育成支援については、新たに食品加工に取り組みようとする事業者に対するセミナーの開催などに引き続き取り組み、新商品開発等を促進していく。 また、食のイベントの拡充・促進についても、補助期間が継続中の2事業に対して引き続き支援を行うなど、本市の個性豊かな資源の一つである食の魅力活用を図る。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 3-(1)-①オンリーワンの魅力創出



検証会議の意見
KPIについては、食の都づくりに向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、食品関連事業者の育成支援を行うほか、イベントについては、同感染症対策を踏まえた形態での事業やより効果が期待できる首都圏等での開催を検討していただきたい。
A

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	216.1	-272.5%

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 〔実績値 評価〕
(1)鹿児島オリジナルの魅力向上	20								
②歴史、自然等を生かした観光の振興		入込観光客数	(H26) 950	1,050	万人	507.1	-442.9%	C	511.4
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
明治維新150周年事業の実施	【事業終了】 明治維新150周年事業及び大河ドラマ「西郷どん」と連携した取組に関しては、R元年度において終了した。								
大河ドラマ「西郷どん」と連携した取組の推進									
維新ふるさと館の展示更新	【事業終了】 維新ふるさと館の展示更新に関しては、H30年の明治維新150周年の際に「幕末探訪・郷中教育コーナー」を展示更新し、取り組みを終了した。								
鶴丸城御楼門の観光資源としての活用	「鹿児島ぶらりまち歩き」では、R2年3月に完成した御楼門を周遊するコースを設けており、観光ボランティアガイドによる案内を実施した。 ※御楼門を含むコースに限っては当日受付を行っている。								
東京オリンピック・パラリンピック等の合宿誘致	東京オリンピックの開催に向けたラグビーセブンズ南アフリカチームの事前合宿受入を行ったほか、ラグビーセブンズ日本チームの合宿受入を行った。								
鹿児島マラソンなどスポーツ・ツーリズムの推進	交流人口の拡大や地域経済の活性化のため、鹿児島マラソン2022の開催準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を中止した。								
プロスポーツチームの育成支援と競技場などの施設整備	鹿児島ユナイテッドFC・鹿児島レブナイズが行う本市の観光PR活動等に対して支援を行い、スポーツを通じた観光交流の促進を図った。 企業版ふるさと納税制度を活用し、鹿児島ユナイテッドFCのトレーニング施設の整備を支援したほか、喜入地域における「スポーツを生かしたまちづくり」を推進した。 スタジアムの整備に向けて、国内外のスタジアム等の先行事例を参考に、鹿児島にふさわしい「稼げる」スタジアム像について調査分析を行うとともに、関係団体や市民等との共有を図るためのシンポジウムを開催した。また、県総合体育館の検討が進んだことを踏まえ、県市間の連絡会等において県と継続的に協議を行った。								

次ページに続く

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 実績値 評価
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上	20	入込観光客数	(H26) 950	1,050	万人	507.1	-442.9%	C	511.4
② 歴史、自然等を生かした観光の振興									
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
グリーン・ツーリズムの推進	農家民宿開業の支援や、グリーン・ツーリズム活動団体等の登録・助成などの取組を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響で一時期休館・休園していた時期もあったが、お茶の里などの農産物直売所を核とするグリーン・ツーリズム施設の運営や、グリーンファームにおける各種体験プログラム・イベントの実施等により、観光客等の都市部住民と農村地域との交流促進を図った。 (活動組織等及びグリーンファームにおける農業体験などの延べ体験者数 H30年度 約72,300人→R3年度 約54,000人)								
平川動物公園の環境整備	新型コロナウイルス感染症の影響で一時期休園していた時期もあったが、入園者数増を図るため、人数制限を行いながら「巣箱づくり教室」や「動物の鳴き声クイズ大会」、「いも掘り、えさやり体験」などのイベントを実施した。 また、QRコードを用い多言語に対応した「KX鹿児島体験ムービー」を活用し、動物の生態などの解説動画を来館者のスマートフォン等で見られるサービスの提供を引き続き実施したほか、例年実施している「動物講座」については、初の試みとしてライブ配信を行った。								
かごしま水族館の展示更新	新型コロナウイルス感染症の影響で一時期休館としていた時期もあったが、入館者数増を図るため、特別企画展やイルカ水路でのマンボウの展示を実施した。 また、QRコードを用い多言語に対応した「KX鹿児島体験ムービー」を活用し、生きものの生態や展示エリアの解説動画を来館者のスマートフォン等で見られるサービスの提供を引き続き実施した。								
特別国民体育大会・特別全国障害者スポーツ大会の開催準備	令和5年の特別国民体育大会及び特別全国障害者スポーツ大会の開催に向け、本市開催競技の準備推進組織となる市実行委員会を運営するなど、大会の成功に向け各種準備を行った。								
ユニバーサルツーリズムの推進	コロナ収束後の観光需要回復を見据えて、ユニバーサルツーリズムのニーズ・課題等の調査に取り組んだ。								
eSportsの推進	県内関係者へのヒアリングや座談会を行い、本市のeスポーツへの取組みの方向性について、検討を進めた。								
桜島港フェリー施設の整備による観光客受入体制の充実	【事業終了】 桜島港施設整備計画に基づく整備は、R元年度に完了した。								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>KPIについては、あまり達成されていない。これは、<u>新型コロナウイルス感染症の影響により、移動の制限や旅行控えの動きが生じたことなどによるものである。</u></p> <p>R3年度までの取組状況としては、平成30年の大河ドラマ館の設置・運営や鹿児島マラソンの実施、鹿児島ユナイテッドFC等が行う本市観光PR活動等に対して支援のほか、平川動物公園の新型園内バスの運行や新コアラ館の供用開始、かごしま水族館において、360度カメラを用いたVRによる映像の配信などを実施した。また、第2期グリーン・ツーリズム推進計画に基づき、グリーン・ツーリズムも着実に推進され、さらに感染症収束後の観光需要回復を見据えて、ユニバーサルツーリズムのニーズ・課題等の調査に取り組みやeスポーツへの取組の方向性について検討を進めた。</p> <p>こうした取組により、コロナ前のH30年にはKPIの入込観光客数は概ね達成されるなど、堅調に推移してきたが、R2年以降は感染症拡大に伴う、鹿児島マラソンの中止や、第75回国民体育大会・第20回全国障害者スポーツ大会の開催延期などにより、大きく減少した。</p>	<p>本市の個性豊かな資源の価値の向上を図るため、引き続き自然、歴史・文化などの魅力活用や体験型観光の推進、海を生かした回遊性向上の検討、誘客力のある観光イベントの創出・充実、プロスポーツチームの育成支援など、本市ならではのオンリーワンの魅力創出に取り組む。</p> <p>(本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 3-(1)-①オンリーワンの魅力創出</p>



検証会議の意見
<p>KPIについては、新型コロナウイルス感染症の影響による移動制限等が生じたことから、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、同感染症の影響によりインバウンドが伸び悩んでいる間は、他の自治体と連携しながら国内の交流人口の拡大を図るとともに、社会情勢の変化や消費者のニーズ等を踏まえ、柔軟に対応できるよう工夫を重ねながら施策を推進すべきである。</p>

B

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	216.1	-272.5%

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 〔実績値 評価〕
(1)鹿児島オリジナルの魅力向上	21							a	
③花と緑の回遊空間づくり		都市公園の市民一人当たり面積	(H27) 7.62	7.94	m ²	7.95	103.1%		7.92
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							a
鹿児島駅周辺や市立病院跡地への「都市の杜」の整備		鹿児島駅周辺に整備した「上町の杜公園(H28開設)」及び市立病院跡地に整備した「加治屋まちの杜公園(R2開設)」については、適切な維持管理を行うとともに、指定管理者やPark-PFI制度で認定された民間事業者と連携を図りながら、にぎわいの創出を図った。							
城山公園自然の森の再生、武岡公園等の整備		城山公園自然の森の再生については、R元年度に策定した「天然記念物及び史跡城山保存活用計画」に基づき、城山の生態系を破壊する外来種(モウソウチク、トウチク、ハヤトウリ)の駆除を行い、自然植生の復元を図るとともに、城山の活用を図るため、公園内の園路整備を行った。 武岡公園については、整備に向けて用地取得を行った。また、開発行為等に伴い整備された公園(計0.07ha)を開設した。							
南国・鹿児島を感じさせる都市空間の創出		H30年度に整備を行った鹿児島中央駅周辺の鹿児島らしい花木や草花の適切な維持管理を行い、市民や観光客が四季を通じて「南国・鹿児島を感じる空間」の創出に取り組んだ。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、十分に達成されている。 R3年度までの取組状況としては、市立病院跡地において、公園の魅力向上や維持管理費等の低減を図ることを目的に民間活力を導入するPark-PFI制度を県内で初めて活用し、「加治屋まちの杜公園」を整備したほか、鹿児島中央駅周辺において、鹿児島らしい花木や草花を用いた植栽を行い、南国・鹿児島を感じさせる都市空間を創出するなど、概ね計画通りに進捗しており、KPIについても、一貫して十分に達成されている。 これらの取組により、「南国・鹿児島を感じる空間」の創出や賑わいの創出が図られた。	本市の個性豊かな資源の価値向上を図るため、関係機関と連携し、計画的な事業進捗に努め、引き続き、花や緑、公園緑地の充実に取り組む。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 3-(1)-③花や緑、公園緑地の充実

検証会議の意見
KPIについては、花と緑の回遊空間づくりに向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、城山公園自然の森の再生に取り組むほか、加治屋まちの杜公園で活用しているPark-PFI制度について評価のフォローを行っていただきたい。 また、KPIについては、今後、第2期総合戦略を推進する中で、施策の効果をより把握できる指標を検討していただきたい。

A

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26)	336	380	万人	216.1

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<摘要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上	22	④ 潤いのある都市景観の形成	-	200	人 (2年間)	105	52.5%	c	95
景観形成重点地区の指定に向けた地域住民等との協働による取組の推進		景観形成に関する意見交換会等の延べ参加者数							a
景観まちづくり活動団体の活動等への支援		具体的な取組の内容 (R3)							
鹿児島市では、本市特有の景観を有するなどの景観形成上重要な地区を景観形成重点地区として指定しており、R3年度は、住民等との協働により「慈眼寺公園周辺地区」の地区景観計画を策定し、6地区目の景観形成重点地区として指定した。また、「桜島玄関口地区」の住民と景観形成重点地区指定に向けた意見交換を行った。 景観形成に対する市民意識の高揚を図る目的で実施している景観形成に関するイベント等については、感染症の影響により市民教室や景観アドバイザー派遣による勉強会の開催を見送った。 (景観形成重点地区及び候補地に係る取組状況) ・慈眼寺公園周辺地区 : 住民等との協働により地区景観計画を策定し、景観形成重点地区に指定した。 ・桜島玄関口地区 : 景観形成重点地区指定に向けた今後の流れ等について、意見交換を図った。 「桜島玄関口地区」における住民との意見交換時に、団体活動応援補助金制度について説明を行い、活用を促した。 また、「喜入旧麓地区」において、周囲の景観に調和させ、景観形成を推進する垣柵の修繕について、修景補助を行った。									

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、あまり達成されていない。これは、 感染症の影響により、市民教室や景観アドバイザー派遣による勉強会の開催を見送ったことによるものである。 R3年度までの取組み状況としては、元年度までのKPI「景観形成重点地区」については、H30年度で目標値5地区を達成し、R3年度に「慈眼寺公園周辺地区」を指定したことにより、6地区となり、十分に達成されている。また、各地区の自然景観の魅力などの周知を図るため、地区内に設置する案内板に、市ホームページのQRコードを記載し、英文など日本語以外の言語による説明が閲覧できるようにするなど、効果的な広報に努め、「慈眼寺公園周辺地区」については、R5以降に設置予定)補助金についても主に指定した地区の住民等へ周知を図った。指定候補地においては住民等の景観への深い理解のもと、自らの基準づくりと継続的な景観まちづくり活動が望ましいことから、地元への働きかけ等においては、丁寧な説明を行った。 これらの取組により、各地区の自然景観の魅力促進を図った。	市景観計画に位置付けられている景観形成重点地区候補地において地元との協議等を重ね、市民等との協働による取組を推進し、景観づくりに係る合意が図られた後は、景観形成重点地区の指定を目指す。景観形成に対する市民意識の高揚を図る目的で開催するイベント等については、感染症の影響を踏まえ、感染防止策の徹底(リモート等)により開催する。 また、指定した地区における支援(補助金等)について、現行の交付要件等の検討を行うとともに、関係部局との連携や効果的な情報発信を図るなどして、潤いある都市景観の形成に務める。 (本市施策の第2期総合戦略における位置づけ) 3-(1)-②地域特性を生かした創造性豊かな景観の形成・活用	KPIについては、 新型コロナウイルス感染症の影響により勉強会等の開催を見送ったことから、あまり達成されていない。 取組の方向性は妥当であることから、引き続き、同感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、住民等との協働による取組を進めるとともに、景観形成に対する市民意識の高揚に向けて効果的な情報発信に取り組んでいただきたい。

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	216.1	-272.5%

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 〔実績値〕 評価
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上	23								
⑤“鹿児島ファン”の拡大		「友人・知人に鹿児島市を勧めたい」と思う市民の割合	(H30) 55.5	60.5	%	55.3	-4.0%	C	53.0
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
シティプロモーション戦略ビジョンの推進		・H30年度に策定したシティプロモーション戦略ビジョンに基づく取り組みとして、シティプロモーションアドバイザーを配置し、関係機関等との意見交換や豊富な知見に基づく助言を関係部署と共有し、関連施策等に反映した。 ・シビックプライド醸成及び関係人口の創出を図る大規模ワークショップ「PLAY CITY! DAYS」(参加者: 鹿児島76名、首都圏等28名)や本市への興味・関心を高める機会を創出するためのテーマ型トークイベント(オンライン)(参加者延べ120名)を実施し、地域のキーパーソンと関わりながら本市の多彩な魅力を知り、磨き、発信する機会づくりに取り組んだ。 ・本市ブランドメッセージの浸透・拡散を図り、官民一体となったシティプロモーションの機運醸成を図るため、シンボルマーク「マグマシティ」、キャラクター「マグニオン」等の庁内外での活用促進に取り組んだ。 ・コロナの状況や各種統計データ等を踏まえ、第2期シティプロモーション戦略ビジョンを策定した。 なお、一部の取組については新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、実施を見送っている。 ・シブヤでかごしまフェスティバル開催事業 など							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、あまり達成されていない。 R3年度までの取組状況としては、シビックプライド醸成や地域のキーパーソンと関わりながら本市の多彩な魅力を知り、磨き、発信する機会づくりの創出、関係機関等の意見交換等を行った。 「⑤“鹿児島ファン”の拡大」についてはR2年度に追加した項目であり、 <u>新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの中止や外出自粛など、まちを推奨するきっかけとなる体験機会が減少したため、2年にわたりKPIの目標値を下回っているが、これらの取組により、ブランドメッセージの推進・拡大や第2期シティプロモーション戦略ビジョンの策定等の取組の推進を図った。</u>	第2期鹿児島市シティプロモーション戦略ビジョンに基づき、特に重点的に取り組む戦略を定め、庁内外と連携したより積極的なシティプロモーションを展開する。 関係人口の出現率が高く、地方や自然への関心が高まっている市内外の20～30代をメインターゲットにプロモーションを推進する。 市・市民・団体等・関係人口のネットワーク化を図る。 (本市施策の第2期総合戦略における位置づけ) 重点2-(2)関係人口の創出・拡大



検証会議の意見
KPIについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、体験機会が減少したことから、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、「本市を勧めたいと思わない」と回答した理由を分析した上で、体験機会の提供や効果的な情報発信を通じて、市民が本市の魅力を感じられるよう工夫すべきである。

B

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 みがく

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	216.1	-272.5%

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注) *は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要>	
(1) 評価 (KPI)	(2) 検証会議の意見
a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 [実績値] 評価
(2) まちなかのにぎわい創出									
①集客力・回遊性の向上	24	中心市街地の歩行者通行量	(H26) 16	17.1	万人	12.4	-327.3%	c	12.4
		カゴシマシティビューの乗客数	(H28) 18.7	20.6	万人	10.3	-442.1%		8.9
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
鹿児島本港区への路面電車観光路線新設の検討		観光路線については、本港区エリアの施設整備の動向を踏まえ、検討を行うこととしており、県と定期的に意見交換を行うなど、その検討状況の把握に努めた。							
天文館ミリオネーションなどイベントの充実		中心市街地に大規模なイルミネーションで光の空間を創り出す冬のイベント「天文館ミリオネーション2022」を開催し、本市の冬季の滞在型観光の推進を図った。(来場者数: 約11万3千人)。また、R3年度は、「KAGOSHIMA YELL!!」をテーマとした色彩豊かな空間を演出するとともに、ARウォークやグルメスタンプラリーの開催など、周辺通り会や飲食店と連携した取り組みを実施するなどして、中心市街地のにぎわい創出に寄与した。							
コミュニティサイクル「かごりん」の利便性等の向上		クーポン付「マップマガジン」を発行するなど「かごりん」の情報発信を行い、利便性の向上に努めた。R3年6月には利用回数100万回を達成し、R3年度は延べ179,207回の利用(過去最高)があり、まちなかの回遊性向上を図ることができた。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、あまり達成されていない。これは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う移動の制限等により、人流が大幅に抑制されたことによるものである。 R3年度までの取組状況としては、路面電車観光路線については、基本計画策定委員会を開催し、ルート案について協議し、4つのルート案を設定(R2年3月)したほか、本港区エリアの施設整備の検討状況を把握するために、県と意見交換を行ってきた。 天文館ミリオネーションについては、H27年度からR3年度までで延べ約110万人の来場があり、冬季の滞在型観光を推進し、まちなかのにぎわい創出に寄与した。 「かごりん」についてはH27年3月の事業開始から3年末までで延べ1,136,096回の利用があり、まちなかの回遊性向上などに寄与した。これらの取組により、中心市街地のにぎわい創出とまちなかの回遊性向上の推進を図った。	路面電車観光路線については、本港区エリアの施設整備の動向を踏まえ、検討を行う。 天文館ミリオネーションについては、天文館地区の飲食店や通り会などと連携したイベントの拡大に努めるなど、冬季イベントの風物詩として定着するよう取り組むとともに、まちなかの回遊性の向上を図る。 「かごりん」については、まちなかの回遊性向上への効果が期待されるため、市民や観光客等による利用促進につながるよう、引き続き情報発信を行い、また新システムを導入することにより、更なる利便性の向上につなげたい。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 3-(1)-①オンリーワンの魅力創出 3-(2)-①観光客受入体制の充実 ②まちなかのにぎわい創出・回遊性向上



検証会議の意見
KPIについては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う移動の制限等により、人流が大幅に抑制されたことから、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、かごりんについて、引き続き、効果的な情報発信を行うとともに、新システムの導入によるさらなる利便性向上を図るほか、同感染症収束後の集客力・回遊性の向上に向けた方策について検討すべきである。

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R3年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	216.1	-272.5%

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)※は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない - : 評価なし	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値) 評価
(2)まちなかのにぎわい創出	25	JR鹿児島駅の乗降客数	(H24) 121.4	122.5	万人以上	103.3	-1645.5%	c	98.7
②新たな都市拠点の形成		「かんまちあ」で開催されるイベント数	-	120	件/年	142	118.3%		
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R3)								
鹿児島駅周辺地区における交通結節機能の強化や魅力ある都市拠点の形成	鹿児島駅周辺地区については、引き続き施設整備を進め、市道と本町線緑交通広場や鹿児島駅前広場の供用を開始し、鹿児島駅周辺整備が完了した。 また、上町ふれあい広場及び上町の社公園(かんまちあ)については、新型コロナウイルス感染症の影響により多くのイベントが中止となり、R3年度のイベント数は142件で前年度と同数であった。								
鹿児島港本港区における集客力のある施設の整備促進	本港区の整備については、県市で継続的に意見交換を実施。県は、コンベンション・展示機能を備える施設に係る整備可能性調査を実施するとともに、スポーツ・コンベンションセンター基本構想を公表し、これらを踏まえ、まずは、鹿児島港本港区エリア内に、スポーツ利用に加え、多目的な交流機能を有するスポーツ・コンベンションセンターの整備を進めたいとの考えを示している。								
中央町19・20番街区や千日町1・4番街区における市街地再開発の推進	いづろ・天文館地区のほぼ中央に位置する千日町1・4番街区については、市街地再開発組合がR2年1月に再開発ビル工事に着手し、R3年12月に完成した。								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIについては、「かんまちあ」で開催されるイベント数は十分に達成しているものの、JR鹿児島駅の乗降客数は、あまり達成されていない。JR鹿児島駅の乗降客数の減少は、新型コロナウイルス感染症の影響による移動の制限等により、人流が抑制されたことによるものと考えられる。 R3年度までの取組状況としては、鹿児島駅周辺については、H28年度に上町ふれあい広場及び上町の社公園、R元年度に新駅舎、R2年度に自由通路、R3年度に駅前広場等の供用を開始したほか、かんまちあでのイベント数は順調に増えていたものの、R2年度から同感染症の影響により減少したが、目標値は達成した。 また、本港区の整備については、県が平成30年度にグランドデザインを公表した後、令和2年度末から事業者公募を開始する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により民間事業者の公募に向けた提案内容の検討に支障が生じていることから延期。コンベンション・展示機能を備える施設に係る整備可能性調査、スポーツ・コンベンションセンター基本構想の策定を経て、現在、グランドデザインにもとづくまちづくりについて、県市で継続的に意見交換を行っている。 さらに、市街地再開発事業については、R2年度に中央町19・20番街区、R3年度に千日町1・4番街区の再開発ビルが完成した。 これらの取組により、新たな都市拠点の整備やにぎわいの創出が図られた。	中央町19・20番街区及び千日町1・4番街区での市街地再開発事業と鹿児島駅周辺整備事業が完了したことから、今後はこれらの整備効果を活かしながら、広域的な拠点形成をさらに進め、にぎわいの創出と回遊性の向上を図り、中心市街地全体の活性化につなげていく。 (本施策の第2期総合戦略における位置付け) 3-(2)-②まちなかのにぎわい創出・回遊性向上

検証会議の意見	
KPIについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、JRの乗降客数が減少したことから、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、鹿児島駅周辺整備完了後の人の流れの変化を把握しながら、同駅周辺地区のさらなる魅力向上に努めるとともに、近接する本港区との連携についても検討すべきである。	B

基本目標

4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」

検証シート総括表

(R3年度)

<p><概要> (1) 評価(数値目標・KPI) a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	---

〔数値目標〕

指標	基準値	目標値 (R3)	単位
国内外の交流都市数	(H27) 21	26以上	都市

実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	意見 (R3)	R2参考 (実績値)	R2参考 (評価)
25	80.0%	b	B	25	a

根拠統計等
(市)事業実績

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位
(1)人口減少等を見据えた持続可能なまちづくり					
①都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成	26	「日常生活における生活利便施設が整備されている」と感じる市民の割合	(H28) 68.7	73.0	%
		公共交通不便地対策の実施地域数	(H26) 12	16	地域
②ストックマネジメントの強化	27	公共施設配置適正化計画に基づく事業完了施設数	—	14	施設
		危険空き家の解体への助成件数	(H26) 20	144	件 (7年間)
(2)互いに支え合う温もりのある地域社会の形成					
①地域コミュニティの形成	28	地域コミュニティ協議会数	(H26) 3	79	団体
		地域コミュニティプランに基づき活動する協議会数	(H30) 50	79	団体
②協働によるまちづくり	29	市内のNPO法人数	(H26) 396	430	団体
		NPO等が行う活動への助成件数	(H30) 12	24	件 (2年間)
(3)移住の促進	30	移住セミナー等における延べ面談件数	(H30) 97	130	件/年
		本市の関連施策を通じた移住者数	(H28) 17	50	人/年
(4)都市間の交流・連携					
①国際交流の推進	31	国際交流事業への参加者数	(H26) 11,523	13,200	人
②国内の都市との多様な交流・連携	32	都市間連携に係る実施事業数	(H26) 19	25	件

実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	意見 (R3)	R2参考 (実績値)	R2参考 (評価)
-	-	a	A	-	a
16	100.0%	a	A	16	a
7	50.0%	b	A	6	b
163	113.2%	b	A	138	b
79	100.0%	a	A	79	a
79	100.0%	a	A	78	a
359	-108.8%	c	B	368	c
19	79.2%	c	B	9	c
153	117.7%	a	A	79	a
203	406.0%	a	A	121	a
1,613	-590.9%	c	B	1,521	c
26	116.7%	a	A	25	a

根拠統計等
(市)アンケート調査
(市)事業実績

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

数値目標及び主な施策やKPIの進捗を踏まえた全体の評価

ひと・まちを多彩に「つなぐ」の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>数値目標については、概ね達成されている。 R3年度までの取組状況としては、都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成は十分達成されているとともに、ストックマネジメントの強化は概ね達成されており、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりの推進が図られた。 市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会の形成に向けた地域コミュニティの形成は十分に達成されているが、一方で、協働によるまちづくりに係るKPIについては、あまり達成されていない。 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援による本市への移住促進や国内の都市との多様な交流・連携は十分に達成されている。一方で、国際交流に係るKPIはあまり達成されていないものの、オンラインによる交流をはじめ市民や事業者と連携しながら、新型コロナウイルス感染症の影響下においても可能な取組を行うことで推進が図られた。</p>	<p>協働によるまちづくりについて、既存のNPOが休眠状態に陥らないよう、新型コロナウイルス感染症などの影響を踏まえた支援や、NPO等の相互連携の促進が図られるよう支援のあり方を検討していくほか、国際交流の推進については、同感染症収束後の交流に向けた継続的な協議や市民主体の国際交流活動の促進に向けた取組をさらに進めていくなど、引き続き、持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開する。</p>



検証会議の意見
<p>数値目標については、ひと・まちを多彩に「つなぐ」という基本目標に向けて、概ね達成されている。全般的には推進すべきだが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、同感染症の影響下においては、オンラインやSNSを積極的に活用するとともに、同感染症収束後を見据えた施策も検討しながら、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開すべきである。</p>

B

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることによって、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	26以上	都市	25

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(1) 人口減少等を見据えた持続可能なまちづくり									
① 都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成	26	「日常生活における生活利便施設が整備されている」と感じる市民の割合	(H28) 68.7	73.0	%	—	—	a	—
		公共交通不便地対策の実施地域数	(H26) 12	16	地域	16	100.0%		16
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							a
立地適正化計画の策定・推進		立地適正化計画(29年3月策定)の着実な推進を図るため、商業・福祉・交通など多様な分野の学識経験者、関係団体、関係行政機関の外部委員等で構成する推進協議会及び庁内関係課で構成する推進庁内会議を開催し、プランの進捗管理等を行うとともに、都市再生特別措置法施行令の改正を踏まえ、居住誘導区域から土砂災害特別警戒区域を除外するプランの一部変更を実施した。							
公共交通ビジョンの見直し・推進		公共交通ビジョン(H22年3月策定、H29年3月見直し)の着実な推進を図るため、学識経験者、交通事業者、行政等で構成する策定協議会を開催し、施策の推進を図るほか、令和2年度に実施した基礎調査等を踏まえ、第二次公共交通ビジョンを策定(令和4年3月)した。							
公共交通不便地対策の拡充・維持		コミュニティバス等の運行を継続するとともに、利用者数の少ない小野・伊敷地域コミュニティバスの乗合タクシーへの切替え並びに谷山、谷山北部、谷山南部及び小原地域の利用者数の少ない便の減便等を行った。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、「公共交通不便地対策の実施地域数」は十分に達成されている。また、「日常生活における生活利便施設が整備されていると感じる市民の割合」は、3年度においては調査がなかったところである。 R3年度までの取組状況としては、立地適正化計画は、策定・一部変更を行い、推進協議会等を開催して進捗管理を行った。 公共交通ビジョンは、学識経験者、交通事業者、行政等で構成する会議において、事業の進捗管理等を行ってきたほか、R3年度は新たに第二次公共交通ビジョンを策定した。 公共交通不便地対策は、H27年度に選定した公共交通不便地についてコミュニティバス及び乗合タクシーの運行を開始した。また、R3年度においては、利用者数の少ない小野・伊敷地域のコミュニティバスを乗合タクシーに切替えるとともに、谷山、谷山北部、谷山南部及び小原地域の利用者数の少ない便の減便等を行った。 これらの取組により、都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成の推進が図られた。	立地適正化計画については、推進協議会等を開催し、届出対応等による住宅建築や誘導施設の動向把握を行うとともに、令和5年度の見直しに向けて、法改正や第二次都市マス踏まえながら検討を行う。 公共交通ビジョンについては、新たに策定した第二次ビジョンの着実な推進に向け、学識経験者、交通事業者、行政等で構成する推進会議を開催し、事業の進捗状況の把握や調整等を行う。 公共交通不便地対策では、引き続き公共交通不便地における日常生活の交通手段を確保するとともに、交通手段の最適化を検討する。 KPI「公共交通不便地対策の実施地域数」については、現在対策を実施している地域で、対策を継続することを目標としている。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 4-(1)-①都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成	KPIについては、都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、公共交通不便地対策について、運行計画等の変更の際に、地域との対話・調整を行うとともに、コミュニティバスや乗合タクシーが利用しやすくなるよう、さらに工夫していただきたい。 A

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることによって、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	26以上	都市	25

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a: 十分に達成されている b: 概ね達成されている c: あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A: 引き続き、現状の取組を推進すべきである B: 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(1) 人口減少等を見据えた持続可能なまちづくり									
② スtockマネジメントの強化	27	公共施設配置適正化計画に基づく事業完了施設数 危険空き家の解体への助成件数	— (H26) 20	14 144	施設 件 (7年間)	7 163	50.0% 113.2%	b	6 138
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							b
公共施設等の計画的な更新・長寿命化		公共施設配置適正化計画に基づき、大規模改修を検討するもの1施設の事業が完了した。							
空き家等の対策の強化		「鹿児島市空き家等対策計画」に基づき空家活用アドバイザー派遣等の施策に組み込み、危険空き家の解体については25件の助成を行った。							
良質な住宅ストックの形成の促進		「鹿児島市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、既存の市営住宅の「建替」と並行し、既存ストックを耐用年限まで使用するための「改善」を実施した。また、民間住宅については、耐震改修工事の助成や耐震アドバイザーの派遣等を行った。							
団地再生の推進		「かごしま団地みらい創造プラン」に基づき、対象の29団地の地域コミュニティ協議会の役員や地域住民、事業者等との意見交換を行い、プランの周知や意識啓発を図った。また、まちづくり活動に取り組む住民グループの打合せ等に、職員や専門家が適宜参加して助言等を行い、まちづくり活動を促進した。更に、実践セミナーを開催し、新たな人材発掘・育成を図った。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、概ね達成されている。 R3年度までの取組状況としては、公共施設配置適正化計画に基づく、建替え等の事業が7施設で完了したほか、空き家等の対策の強化、良質な住宅ストックの形成の促進とともに、これまで充実させてきた施策に取り組んできたところであり、危険空き家の解体への助成件数の実績は、目標値を上回った。また、計画に基づき既存市営住宅の建替、改善を実施し、良質な住宅ストック形成の促進が図られた。 団地再生では、H29年度から団地再生推進庁内検討会を設置し、団地再生の手法や具体策を検討するとともに、地域住民等とのワークショップ等を行った。また、R2年度に「かごしま団地みらい創造プラン」を策定し、R3年度以降、同プランに基づき、対象の29団地に対して、地域住民等との意見交換や、具体的な支援を始めており、地域主体による住宅団地の活性化に向けた取組の促進が図られた。	公共施設等の計画的な更新・長寿命化については、財政負担の軽減・平準化を図るため、公共施設配置適正化計画に基づく事業を計画的に実施するとともに、空き家等対策の強化については、空き家等対策計画に基づき取り組む。また、「公営住宅等長寿命化計画」に基づき、建替や改善を実施するほか、民間住宅については、引き続き補助等の取組を進めることで、良質なストック形成の促進を図る。 団地再生の推進については、引き続き、庁内で連携を図りながら、対象団地における地域主体のまちづくりの実現に向けて、意見交換会、実践セミナー、ワークショップの運営支援、職員や専門家による助言等の支援を行う。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 4-(1)-②ストックマネジメントの強化 ③住宅団地の活性化	KPIについては、ストックマネジメントの強化に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、危険空き家への解体助成について制度のさらなる周知を図るほか、団地再生については、若い世代を入れた団地再生ワークショップのさらなる充実を図っていただきたい。 また、KPI「公共施設配置適正化計画に基づく事業完了施設数」については、今後、第2期総合戦略を推進する中で、施策の効果をより把握できる指標を検討していただきたい。

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながること、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	26以上	都市	25

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)	
(2) 互いに支え合う温もりのある地域社会の形成	28	地域コミュニティ協議会数	(H26)	3	79	団体	79	100.0%	a	79
① 地域コミュニティの形成		地域コミュニティプランに基づき活動する協議会数	(H30)	50	79	団体	79	100.0%		78
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R3)								a	
市内全域における地域コミュニティ協議会の設立・活動支援	R2年度までに全79団体の設立を完了し、プラン策定等の活動を支援した。									

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、十分に達成されている。 R3年度までの取組状況としては、R2年度までに全79団体の地域コミュニティ協議会の設立が完了したほか、プラン策定等の活動支援により、R3年度には、全団体においてコミュニティプランの策定が完了した。 これらの取組により、地域活動を支える人材育成等を推進し、住民主体の地域づくりの促進が図られた。	幅広い団体・世代が連携・協力してまちづくりに取り組んでいくよう、協議会における地域コミュニティプランの策定、プランに基づく活動等を積極的に支援するとともに、地域活動の担い手の育成や課題解決に向け協議会相互の交流等による活動の活性化を図る。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 4-(2)-①住民主体の地域づくりの促進	KPIについては、地域コミュニティの形成に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、世代間で偏りが生じないよう、誰もが参加しやすい組織づくりを進めるほか、地域を支える人材育成に向けた活動の充実を図っていただきたい。 A

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながること、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27) 21	26以上	都市	25	80.0%

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(2) 互いに支え合う温もりのある地域社会の形成	29	市内のNPO法人数	(H26) 396	430	団体	359	-108.8%	c	368
② 協働によるまちづくり		NPO等が行う活動への助成件数	(H30) 12	24	件 (2年間)	19	79.2%		9
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R3)								c
NPO等の育成・支援、連携強化など市民活動の促進	公益的なサービスを提供する市民活動団体に対し、活動経費の一部を助成し、活動への具体的な助言を行った。 ※実績: 市民活動団体の活動費助成10団体 また、以下の取組については、新型コロナウイルス感染症による厳しい財政状況から実施を見送っている。 ・NPO基盤強化事業								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、「市内のNPO法人数」はあまり達成されていない一方、NPO等が行う活動への助成件数は、コロナの影響により市民活動団体の活動制限もある中、概ね達成されている。 本市のNPO法人数については、人口規模が同程度の中核市と比べても突出して多く、H25年度までは増加傾向であったが、H26年度以降は、一定の数で推移しており、近年は減少傾向にある。 R3年度までの取組状況としては、市民活動団体の活動に必要なノウハウの習得の支援や資金面での支援を行ってきたところであり、コロナ禍の影響により、一部の団体で活動の中止、制限があったようではあるものの、市民活動の促進を図った。	今後とも、市民活動団体への助成や多様な主体による連携促進を図るとともに、市民活動団体の情報を市としても積極的に発信していくなど、市民活動促進のための取組を継続していく。 これまでの検証会議の意見でもあったとおり、既存のNPOが休眠状態に陥らないよう、コロナなどの感染症の影響を踏まえた支援や、NPO等の相互連携の促進が図られるよう支援のあり方を検討する。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 4-(2)-②市民との協働の推進	KPIについては、本市のNPO法人数が近年は減少傾向にあることから、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、本市のNPO法人数の動向等を調査・分析するとともに、県と連携しながら早急に市民活動団体へのヒアリングを行い、ニーズに応じた支援策を講じるべきである。

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることによって、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27) 21	26以上	都市	25	80.0%

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(3) 移住の促進	30	移住セミナー等における延べ面談件数	(H30) 97	130	件/年	153	117.7%	a	79
		本市の関連施策を通じた移住者数	(H28) 17	50	人/年	203	406.0%		121
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
ワンストップ型PRツールの制作・情報発信		ポータルサイトやパンフレット等の媒体や、オンライン相談会等の機会を通じて、本市の魅力や生活環境、就労・住まい・子育て支援等の効果的な情報発信に取り組んだ。 3年度は、東京での移住セミナーに参加したほか、オンラインによる相談会等を開催する機会が増加したため、移住セミナー等における述べ面談件数が増加した。(移住セミナー等における述べ面談件数 R2年度79件→R3年度153件)							
移住相談体制の充実及び関係機関との連携強化		WEB会議システムを活用したオンライン相談を毎月実施するとともに、移住希望者のニーズに合わせたきめ細かな情報提供や相談対応、移住後のフォローアップなど、移住支援コーディネーターによる支援を行ったほか、引き続き、ふるさと回帰支援センターとの連携を図った。							
移住支援制度の整備・拡充		移住検討者を対象とするIJU倶楽部会員特典サービスについて、新たな協賛事業者を追加したほか、移住奨励金の基準額や対象経費について検討を行った。また、庁内各部署が実施している移住関連施策をHP等で周知するとともに、移住促進庁内連絡会を複数回開催し、移住促進に向けたさらなる連携強化を図った。 (移住奨励金支給件数 R2年度9件→R3年度74件)							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、十分に達成されている。 R3年度までの取組状況としては、移住推進に係る取組については、H30年度に移住支援コーディネーターを配置し、移住希望者のニーズに合わせた情報提供や相談対応、移住後のフォローアップ等を行った。 また、R元年度に開設したポータルサイト等を活用して、本市の魅力や生活環境の効果的な情報発信を行ったほか、2年度には、オンライン相談の実施やIJU倶楽部会員特典サービス、移住奨励金の創設など、各種施策に積極的に取り組み、本市への移住促進が図られた。	引き続き、移住情報の提供のほか、相談・受入体制や移住支援制度の充実など、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進する。 (本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 4-(4)移住の促進	KPIについては、移住の促進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、移住希望者のニーズの把握と移住後のフォローアップ体制の充実を図るとともに、本市の魅力発信や他都市における移住者の動向、取組事例の把握・分析に努めていただきたい。 A

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。
 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることで、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。
 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
国内外の交流都市数	(H27) 21	26以上	都市	25	80.0%

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

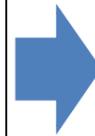
<p><概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(4) 都市間の交流・連携	31	① 国際交流の推進	(H26) 11,523	13,200	人	1,613	-590.9%	C	1,521
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							C
姉妹友好都市等との交流の推進		新型コロナウイルス感染症の影響により、青少年の翼事業など海外の往来を伴う交流の実施は見送りとなったが、姉妹友好都市等とオンラインを活用した交流を行ったほか、市民へのPRとして市電姉妹友好都市号や市電ストラスプール号を運行した。							
市民レベルの交流の促進		国際交流センターを中心に、年間を通して、市民や在住外国人を対象とした国際理解や多文化共生の地域づくりの推進等に関する各種事業・イベントを開催した。 かごしまアジア青少年芸術祭については、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止したが、代替として、オンライン音楽祭を実施した。							
県と連携した国際交流センターの整備		新型コロナウイルス感染症の影響により一部のイベント等が中止となったが、各種事業の実施等により、施設の貸出件数、入館者数は前年度より増加している。							
ネクスト“アジア・鹿児島”イノベーション戦略の推進		第六次鹿児島市総合計画前期基本計画の策定に合わせ、戦略の計画期間を令和8年度まで延長するとともに、社会経済情勢の変化等を踏まえ、主な取組等を見直すなどの改定を行ったほか、先進的な取組を行う民間事業者等を支援した。(新型コロナウイルス感染症の影響により、補助対象3事業中1事業は事業を中止。国の地方創生推進交付金を活用。)							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>KPIについては、あまり達成されていない。これは、多くの事業が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止または縮小されたことによるものである。</p> <p>R3年度までの取組状況としては、姉妹友好都市をはじめとする多くの国々の都市との多彩な交流の推進、次代を担う国際性豊かな人材の育成に取り組んだところであり、令和元年度は新たにストラスプール市とパートナーシップ協定を締結するなど姉妹友好都市等との交流を推進した。</p> <p>また、令和2年度は、本市の国際交流の拠点施設として国際交流センターの供用を開始し、各種事業やイベントの開催により市民主体の国際交流活動の促進したほか、ネクスト“アジア・鹿児島”イノベーション戦略の推進に取り組んだ。</p> <p>往来を伴う交流が難しい状況の中、オンラインによる交流をはじめ市民や事業者と連携しながら、同感染症の影響下においても可能な取組を行うことで、国際交流の推進を図った。</p>	<p>姉妹友好都市等との交流については、オンライン等を活用した交流を引き続き行うとともに、新型コロナウイルス感染症収束後の交流についても継続的に協議を行う。</p> <p>また、国際交流センターを拠点とした各種事業やイベントを通じた市民と外国人との交流機会の充実など、市民主体の国際交流活動の促進に向けた取組をさらに推進する。</p> <p>本市における“アジアの日常化”に向け、未来を担う子どもたちや若者を主なターゲットとして、今後とも多文化共生の地域づくりなどアジア戦略に掲げる取組を推進する。</p> <p>(本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 4-(3)-①国際交流の推進 4-(2)-③多文化共生の推進</p>



検証会議の意見
<p>KPIについては、多くの事業が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止または縮小されたことにより、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、同感染症の影響により交流が困難な間は、オンライン交流やSNSを活用した情報発信など取組を工夫するほか、同感染症収束後に備え、対面による交流に向けた準備を進めるべきである。</p>

B

〔基本目標〕 つなぐ

<p>地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。</p> <p>生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながること、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。</p> <p>そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。</p>

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値
国内外の交流都市数	(H27) 21	26以上	都市	25	80.0%

〔基本的方向〕

<p>都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。</p> <p>また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。</p>
--

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値評価)
(4) 都市間の交流・連携	32	都市間連携に係る実施事業数	(H26) 19	25	件	26	116.7%	a	25
②国内の都市との多様な交流・連携									
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R3)								
四都市連携(本市及び熊本市、福岡市、北九州市)の強化	引き続き、市民割引料金の他3都市市民への適用、地場企業販路拡大へ向けた支援事業等を行った。更にR3年度から、業務研修生としての職員派遣や、パートナーシップ宣誓制度に関する協定の締結など新たな取組も実施している。								
松本市や札幌市、渋谷区等との交流の充実	市政広報紙での各市の観光スポット紹介や松本市からサッカーJリーグ「松本山雅FC」の春季キャンプの受入等を行った。なお、新型コロナウイルスの影響により、本市の観光情報等を全国に発信するためのイベントを中止したほか、他の取組もオンライン開催や規模を縮小して実施するといった対応を行った。								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>KPIについては、十分に達成されている。</p> <p>R3年度までの取組状況としては、R2年度までに、交流協定都市との周年事業やクリエイティブ産業振興の取組など新たな連携事業を実施してきたほか、R3年度は、熊本市、福岡市、北九州市への職員派遣や、パートナーシップ宣誓制度に関する協定の締結など新たな取組を行った。</p> <p>交流が難しい状況の中、オンラインを活用し、新型コロナウイルス感染症の影響下においても可能な取組を行うことで、都市間の交流・連携が図られた。</p>	<p>アフターコロナにおける本市の魅力の情報発信、交流人口の拡大を図るため、既存の交流都市との事業推進及び他都市との新たな連携交流の可能性について引き続き検討を行う。</p> <p>また、観光や産業、環境等の分野においても、官民連携の取組を中心に検討を進める。</p> <p>(本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 4-(3)-②国内の都市との連携・交流の推進</p>



検証会議の意見
<p>KPIについては、国内の都市との多様な交流・連携に向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、他都市との連携を一層進めるとともに、都市間交流に関する市民の認知度の把握を行い、積極的な情報発信に取り組んでいただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

重点戦略

(1) 世界基準の観光地域づくり

検証シート総括表 (R3年度)

〔関連する基本目標〕

1. しごとで活力を「つくる」
3. まちの魅力を「みがく」

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	意見 (R3)	R2参考 (実績値)	R2参考 (評価)	根拠統計等
(1) 世界に誇りうる地域資源の活用	33	外国人宿泊観光客数	(H26) 12	30	万人	0.8	-62.2%	c	B	6.5	c	(市) 観光統計
① 世界文化遺産の活用												
② JR磯駅の設置促進												
③ 世界ジオパーク認定に向けた取組の推進												
(2) 外国人観光客の誘致・受入体制の整備												
① 鹿児島観光コンベンション協会の体制強化・DMO戦略プランの推進												
② 東アジア等に向けた観光プロモーションの推進												
③ 外国人観光客の受入体制の充実												

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

<p><摘要></p> <p>(1) 評価 (KPI)</p> <ul style="list-style-type: none"> a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない 	<p>(2) 検証会議の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	---

〔基本的方向〕

日本列島をつなぐ新幹線の南の発着点であり、東アジアに近接する陸・海・空の交通結節点でもある本市にとって、観光関連産業の発展や成長は重要です。地域経済のさらなる活性化のためには、観光を持続性のある地域ビジネスとして、より発展させていくことが必要不可欠と言えます。

平成26年の本市観光統計では、宿泊観光客数が336万6千人と前年を上回りましたが、とりわけ外国人宿泊観光客数が12万6千人で前年比31.3%増と大きく伸びており、インバウンドが大きな可能性を秘めています。

このような中、本市では「旧集成館関連遺産群」を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録され、また、「桜島・錦江湾ジオパーク」の世界ジオパーク認定に向けて取組を展開しており、これらを絶好の機会として、特に外国人宿泊観光客数の拡大に向け、戦略的かつ広域的に取り組むため、鹿児島観光コンベンション協会 の組織体制の充実・強化並びに民間との連携の強化を図り、ストーリー性を持った魅力あふれる世界基準の観光地域づくりを進め、若者にとって魅力的な雇用の場を創出するとともに、交流人口の増加による地域経済の活性化を図ります。

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

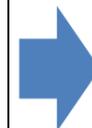
<p><概要></p> <p>(1) 評価 (KPI)</p> <p>a : 十分に達成されている</p> <p>b : 概ね達成されている</p> <p>c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見</p> <p>A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである</p> <p>B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある</p> <p>C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(R3)	単位	実績値(R3)	対目標値	評価(R3)	R2参考 〔実績値〕 評価
(1)世界に誇りうる地域資源の活用 (2)外国人観光客の誘致・受入体制の整備	33	外国人宿泊観光客数	(H26) 12	30	万人	0.8	-62.2%	C	6.5
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
(1) ①世界文化遺産の活用	地元町内会や町づくり団体等によるイベントの実施や構成資産周辺の清掃活動、おもてなしなど、本市構成資産について、その価値や魅力の情報発信、理解増進等の取組を推進した。								
②JR磯新駅の設置促進	磯地区における国道10号仙巖園付近の交差点の改良について、国土交通省に対し要望活動が実施されたほか、磯新駅の設計業務に関し、磯新駅設置協議会とJR九州の間において基本及び実施協定が締結された。(令和3年10月5日)								
③世界ジオパーク認定に向けた取組の推進	始良市及び垂水市と連携し、ジオツアーを実施するなど、ジオパーク活動の充実を図ったほか、桜島・錦江湾ジオパークの情報発信に向けた全体看板を各市に設置した。また、アジア太平洋ジオパークネットワークでのオンラインミーティングや韓国ハンタンガンジオパークとのオンライン交流を行うなど、国際交流・国際貢献に関する取組を進めた。								
(2) ①鹿児島観光コンベンション協会の体制強化・DMO戦略プランの推進	かごしま市観光ナビの認知度向上プロモーションや宿泊・飲食事業へのインバウンド対応研修を実施するなど、鹿児島市DMO戦略プランに基づく、官民連携事業を推進する鹿児島観光コンベンション協会に対し助成を行った。(国の地方創生推進交付金を活用)								
②東アジア等に向けた観光プロモーションの推進	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、直接的なプロモーションはできなかったが、アフターコロナにおける海外からの誘客につなげるために、海外向け観光PRコンテンツの制作やJNTOと連携したデジタルプロモーション、世界水泳をフックとしたプロモーション、オンライン観光の支援などを行った。								
③外国人観光客の受入体制の充実	本市を訪れる外国人観光客の満足度を高めるため、海外観光客の特性・ニーズ調査を行うとともに、食の多様性推進セミナーを開催したほかクルーズ船の受入に係る検温端末やサーマルカメラの設置等を行った。								

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>KPIについては、あまり達成されていない。これは、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴う水際対策の徹底に加え、移動の制限や旅行控えの動きが生じたことによるものである。</p> <p>R3年度までの取組状況としては、世界に誇りうる地域資源の活用については、磯新駅について、事業主体となる磯新駅設置協議会が設立され、同協議会とJR九州との間で基本協定及び実施協定が締結された。さらに、ジオパークについては、世界ジオパーク認定に向けて進めてきたエリア拡大が認定された。</p> <p>外国人観光客の誘致・受入体制の整備については、コンベンション協会に対してDMO設立に向けた組織・人員体制の充実を支援し、DMO推進プランに基づく官民連携事業が進められたほか、市場に応じた効果的なプロモーションや外国人観光客のニーズに応じた受入体制の整備が図られた。こうした取組を通じ、R元年までKPIの外国人宿泊観光客数については順調に増加し、R元年は約493,000人と過去最高となるなど十分に達成されていたが、感染症の拡大に伴い、R2年以降は激減した。</p>	<p>引き続き、世界文化遺産の活用やJR磯新駅の設置促進、世界ジオパーク認定に向けた取組の推進など、世界に誇れる個性豊かな観光資源を生かしながら、戦略的なプロモーションの展開や人材を育成することなどにより、インバウンド対応の強化を図り、「世界に選ばれるまち KAGOSHIMA」づくりを目指す。</p> <p>(本施策の第2期総合戦略における位置づけ)</p> <p>3-(1)-①オンリーワンの魅力創出</p> <p>3-(2)-①観光客の受入体制の充実</p> <p>重点1-(1)インバウンド対応の強化</p>



検証会議の意見
<p>KPIについては、新型コロナウイルス感染症の影響による移動制限等が生じたことから、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、同感染症収束後を見据えた外国人観光客のターゲット設定を行い、ニーズや特性を踏まえた取組を進めるとともに、他の自治体と連携しながら来訪者の利便性向上を検討すべきである。</p>

B

重点戦略

(2) 健“高”医“良”都市の創造

検証シート総括表 (R3年度)

〔関連する基本目標〕

1. しごとで活力を「つくる」
2. 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」
4. ひと・まちを多彩に「つなぐ」

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(R3)	単位	実績値(R3)	対目標値	評価(R3)	意見(R3)	R2参考(実績値)	R2参考(評価)	根拠統計等
(1) 健康と生きがいを実感できる市民生活の提供	34	新たなヘルスケアビジネスの展開に取り組む事業者数	(H26) 8	67	事業者(7年間)	73	109.0%	a	A	68	a	(市)事業実績
①ヘルスケア分野に関する新たな産業の創出		介護保険サービスの総給付費に占める在宅サービス費の割合	(H26) 51.7	56.0	%	56.0	100.0%					(市)事業実績
②生涯活躍のまち構想・基本計画の策定・推進												
③地域包括ケアの推進												
④民間医療機関等との連携強化												

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

<摘要>

(1) 評価(KPI)

- a : 十分に達成されている
- b : 概ね達成されている
- c : あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見

- A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
- B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
- C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

[基本的方向]

超高齢社会の進行が見込まれる中においては、誰もが生きがいを持って健やかに暮らせる地域社会の創造を目指していくことが重要です。
 また、本市産業の特性を見ると、ウェイトの高いサービス業の中でも、特に「医療・福祉業」の集積が厚く、常用雇用者数の推移も、平成24年が約3万9千人となり、平成16年と比べ約1.5倍と大きく増加しています。経済振興の観点からも、この分野に重点を置いた取組を進めていくことが有用です。
 本市の豊かな地域資源や充実した都市機能を活用しながら、本市の基盤産業の一つである医療・福祉業を生かした健康分野に関する新たな産業の創出、さらには民間主導による生涯活躍のまち(CCR C)構想の検討に取り組むとともに、医療・介護の施設や体制の充実などを通して、市民が、高い健康水準を保ちながら生き生きと暮らし、併せて、良好な医療・介護サービスを受けることができる健“高”医“良”都市の創造を図り、これにより、女性や若者の雇用の場の確保にもつなげていきます。

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

[主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)]

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値) 評価
(1) 健康と生きがいを実感できる市民生活の提供	34	新たなヘルスケアビジネスの展開に取り組む事業者数	(H26) 8	67	事業者 (7年間)	73	109.0%	a	68
		介護保険サービスの総給付費に占める在宅サービス費の割合	(H26) 51.7	56.0	%	56.0	100.0%		55.4
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							a
①ヘルスケア分野に関する新たな産業の創出		産学連携のきっかけづくりを目的としたマッチングイベントの開催(4回)や、新サービス等の創出に向けた取組に対する助成(2者)のほか、経済産業省「地域新成長産業創出促進事業費補助金」を活用したプロジェクトへの協力等を通じて、新たなヘルスケアビジネスの事業化支援を実施した。 なお、R3年度において、「ヘルスケア産業部会」に新たに5者が登録した。							
②生涯活躍のまち構想・基本計画の策定・推進		鹿児島市「生涯活躍のまち」構想・基本計画に基づき、生涯活躍のまち形成事業に取り組む事業主体を支援し、喜入地域におけるコミュニティの形成や雇用の創出の後押しを行った。また、令和3年6月に開催した「生涯活躍のまち」推進会議において、計画期間満了に伴う同計画の総括を行った。							
③地域包括ケアの推進		要支援者等を対象に多様なニーズに対応したサービスを提供する介護予防・日常生活支援総合事業を実施するとともに、地域包括支援センターの職員を増員(3人)し、増加している相談への対応強化等と、高齢者の介護予防・自立支援を推進した。(相談件数: R2年度94,972件→R3年度97,768件) また、認知症などにより行方不明となった高齢者等の早期発見のため、市LINE公式アカウントを活用して情報を配信する環境を整備するなど、様々な取組を行った。 令和3年度は、地域で介護予防活動を行う「よかよか元気クラブ」199か所、「お達者クラブ」205か所等へリハビリ専門職を派遣する等、コロナ禍においても引き続き、通いの場の拡大や継続的な活動を推進した。							
④民間医療機関等との連携強化		市立病院では地域医療支援病院として、地域医療機関との連携を推進するため、地域の医療機関への訪問(R2年度51回)を行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインで28施設と意見交換を行った。医療機関を招いた連携に関する講演会の開催(地域医療連携講演会: R2年度1回)については、YouTubeで動画配信による開催を1回行った。							

次ページに続く

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等（R3年度まで）	今後の方向性(考え方)
<p>KPIについては十分に達成されている。 R3年度までの取組状況としては、健康寿命延伸や地域包括ケアシステムの構築に資するヘルスケアビジネス創出の促進が図られたほか、生涯活躍のまち構想・基本計画の策定・推進については、喜入地区における、生涯活躍のまち形成事業に取り組む事業主体を支援することで、中高年齢者等の社会活動への参加によるコミュニティ形成や、医療・介護サービス事業への雇用創出が図られた。 また、高齢者の相談・支援体制の構築、生活援助を行うボランティア団体や地域で介護予防活動を展開する団体の支援等を行うことで地域包括ケアの推進が図られたほか、市立病院では地域医療支援病院として、他の医療機関との連携や地域に必要な医療を確保するための医療機関相互の機能分化の推進が図られた。</p>	<p>引き続き、健康寿命延伸や地域包括ケアシステムの構築に資するヘルスケアビジネス創出を図るため、関係機関と連携しながら、ビジネスアイデアの創出とその事業化支援に取り組む。 「生涯活躍のまち」については、国の第2期総合戦略において、全世代・全員活躍型のコミュニティづくり施策として、位置づけが見直されたことから、今後は、移住施策を含めた、本市の第2期総合戦略に基づく各種施策を分野横断的に推進する。 地域包括ケアの中核的役割を担う地域包括支援センターの機能を強化するなど、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスの一体的な提供体制の充実・強化を図るほか、アフターコロナの視点を踏まえ、引き続き介護予防やフレイル予防に取り組んでいく。 市立病院では地域医療支援病院として、地域の医療機関との医療連携や相互の機能分化を推進するため、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえながら、医療機関への訪問だけではなく、オンライン会議等の取組も充実していく。</p> <p>(本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 1-(1)-②新事業・新産業の創出支援 ※上記の主な取組内容のうち、「①ヘルスケア分野に関する新たな産業の創出」のみ</p>



検証会議の意見
<p>KPIについては、健康と生きがいを実感できる市民生活の提供に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、「生涯活躍のまち」形成について、期間満了に伴う計画の総括を行い、国の戦略における位置づけを踏まえた取組を進めていただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

重点戦略

(3) 大学との連携強化とふるさと教育の推進 検証シート総括表 (R3年度)

〔関連する基本目標〕

1. しごとで活力を「つくる」
4. ひと・まちを多彩に「つなぐ」

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	意見 (R3)	R2参考 (実績値)	R2参考 (評価)	根拠統計等
(1) 大学との連携強化	35	市内大学生の県内就職率	(H26) 61.7	69.7	%	62.8	13.8%	b	A	61.5	b	COC+に参画している市内5大学の公表資料 (市) 事業実績
① 大学等の特色を生かした共同研究・連携による各種施策の実施		市内6大学との新規連携事業・取組数	—	51	事業 (5年間)	82	160.8%					
② 学生が主体的に地域を学ぶ活動への支援やまちづくりへの関心を高める場の創出												
③ 市内の大学が推進する地域連携・協働事業との連携												
(2) ふるさと教育の推進	36	郷土教育に係る体験活動の実施率	(H26) 90.6	100.0	%	100.0	100.0%	a	A	99.1	a	(国) 学校教育についての実態調査
① 郷土教材の活用や地域人材等の授業への参画												
② 人材育成プログラム(かごしま創志塾・ジュニア創志塾)の策定・実施												
③ 職場体験活動の充実												
④ まちづくり提言の機会の創出												

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

<摘要>

(1) 評価 (KPI)

- a : 十分に達成されている
b : 概ね達成されている
c : あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見

- A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔基本的方向〕

地方に魅力ある雇用の場が少ないこと等を背景に、若い世代が大学等の卒業時に大都市圏へ流出しており、地元への定着やUターンを図るためには、雇用環境の改善はもとより、生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育むことが重要です。
 本市と協定を締結している大学と、それぞれの特色を生かした連携事業をはじめ、市内の6つの大学と連携しながら、歴史、伝統や自然という豊富なフィールドの下で、学生の主体的なまちづくりへの参画や地域を学ぶ活動を通して、若者定着に向けた取組等を推進します。
 また、小学校から高等学校までの各ステージにおいて、郷土の歴史や偉人、先人等を教材にした地域への理解を深める取組や、まちづくりについて夢やアイデアを出し合い、意見交換を行う取組も進め、「ふるさと・鹿児島」への誇りと愛着の心を育みます。
 これらを通して、まちづくりの担い手となる人材を育成するなど、大学との連携強化とふるさと教育を推進し、若者の定着を目指します。

<p><概要></p> <p>(1) 評価 (KPI)</p> <p>a : 十分に達成されている</p> <p>b : 概ね達成されている</p> <p>c : あまり達成されていない</p>		<p>(2) 検証会議の意見</p> <p>A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである</p> <p>B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある</p> <p>C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--	--

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値) [評価]	
						62.8	13.8%			b
(1) 大学との連携強化	35	市内大学生の県内就職率 市内6大学との新規連携事業・取組数	(H26) 61.7 —	69.7 51	% 件 (5年間)	82	160.8%	b	63	
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)								b
① 大学等の特色を生かした共同研究・連携による各種施策の実施		連携協定を締結している市内6大学(鹿児島大学、鹿児島国際大学、志学館大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学)とともに、かごしま水族館との共同研究や桜島大根の有用成分の分析、性の多様性等についてのロゴ作成、保育士確保に向けた保育関係学科との意見交換、磯ビーチ活性化策の検討など、各大学の特色を生かした連携事業・取組を実施した。								
② 学生が主体的に地域を学ぶ活動への支援やまちづくりへの関心を高める場の創出		市内の大学に市職員等を派遣して市政に関する講義を行い、学生がまちづくりに対する提言等を行う「まちづくり人材育成連携事業」の実施や、第六次総合計画概要リーフレット作成に向けた編集会議への学生の参画などを通して、学生の発想をまちづくりに生かすことができた。								
③ 市内の大学が推進する地域連携・協働事業との連携		鹿児島大学・志学館大学においては、講師として職員を派遣し、本市のまちづくりに関する講義を行ったほか、鹿児島国際大学においては、「地域人材育成プログラム」において、フィールドワークを受け入れ、学生が地域社会と協働しながら解決策を考え実践する取組を推進した。								

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
<p>KPIについては、概ね達成されている。</p> <p>R3年度までの取組状況としては、H28年度までに市内全大学との連携協定の締結を行い、H29年度には大学連携ネットワーク会議を設置し、連携事業に関するノウハウや情報の共有等を行っている。</p> <p>各大学との連携事業・取組については、R2年度及びR3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止となったものもあったが、毎年度新たな取組も始まるなど、充実が図られた。</p>	<p>大学等の特色を生かした共同研究や学生のまちづくりへの関心を高める取組を進めるなど、さまざまな分野において、各大学との連携事業・取組をさらに充実させる。</p> <p>(本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 重点2-(1)ふるさと教育の推進と大学との連携強化</p>	<p>KPIについては、大学との連携強化に向けて、概ね達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、引き続き、地元で活躍できる人材育成に取り組むとともに、同感染症の影響を踏まえた効果的な事業の実施方法について検討していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

〔基本的方向〕

地方に魅力ある雇用の場が少ないこと等を背景に、若い世代が大学等の卒業時に大都市圏へ流出しており、地元への定着やUターンを図るためには、雇用環境の改善はもとより、生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育むことが重要です。

本市と協定を締結している大学と、それぞれの特色を生かした連携事業をはじめ、市内の6つの大学と連携しながら、歴史、伝統や自然という豊富なフィールドの下で、学生の主体的なまちづくりへの参画や地域を学ぶ活動を通して、若者定着に向けた取組等を推進します。

また、小学校から高等学校までの各ステージにおいて、郷土の歴史や偉人、先人等を教材にした地域への理解を深める取組や、まちづくりについて夢やアイデアを出し合い、意見交換を行う取組も進め、「ふるさと・鹿児島」への誇りと愛着の心を育みます。

これらを通して、まちづくりの担い手となる人材を育成するなど、大学との連携強化とふるさと教育を推進し、若者の定着を目指します。

<p><概要></p> <p>(1) 評価 (KPI)</p> <p>a: 十分に達成されている</p> <p>b: 概ね達成されている</p> <p>c: あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見</p> <p>A: 引き続き、現状の取組を推進すべきである</p> <p>B: 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある</p> <p>C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
--	---

注) *は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 [実績値評価]
(2)ふるさと教育の推進	36	郷土教育に係る体験活動の実施率	(H26) 90.6	100	%	100.0	100.0%	a	99.1
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							
① 郷土教材の活用や地域人材等の授業への参画		<p>「郷土の偉人に学ぶ鹿児島島の心」推進事業において、マンガ教材『徳の交わり～西郷隆盛と菅実秀 魂のふれあい～』を作成、活用し、郷土の偉人の業績を次代を担う児童生徒に伝承し、郷土を愛する心を育んだ(教育課程への位置付け100%)。</p> <p>総合的な学習の時間や学校行事等で、地域と学校がより連携して、地域に根ざした特色ある郷土教育に関する体験的な活動に取り組むことができた(実施率100%)。また、個性あふれる学校づくり推進事業により、各学校の卒業生や地域人材などを講師として招へいし、キャリア教育を推進した。</p> <p>各学校では、校区の伝統・文化・歴史等を踏まえた郷土教育の全体計画を作成(100%)し、地域の人材に協力をいただきながら特色ある郷土教育の取組を行うとともに、伝承活動に関する学習成果を諸行事で発表することができた。</p>							
② 人材育成プログラム(かごしま創志塾・ジュニア創志塾)の策定・実施		<p>「かごしま創志塾」・「ジュニア創志塾」では、尚古集成館・仙巖園の見学や加治屋町史跡めぐりの活動等、郷土の歴史や文化、明治維新で活躍した先人たちの高い志と行動力についての学習や桜島・錦江湾ジオ学習や新島でのボランティア活動等、実践的・体験活動を通して「ふるさと・鹿児島」への誇りと愛着心の育成を図った。また、「卒塾生からのメッセージ」をホームページに掲載したり、同窓会(R3は感染症拡大のため中止)や特別講演への参加を促し、情報交換の場や学習機会の提供に努めた。</p>							
③ 職場体験活動の充実		<p>職場体験活動だけでなく、職場見学、職業講話などの体験的な活動を通して、学校、家庭及び地域における学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする機会を設けた。</p> <p>R3年度の職場体験活動は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、期間の短縮や中止とした学校が多かった(実施校9校)。</p>							
④ まちづくり提言の機会の創出		<p>まちづくり人材育成連携事業として、包括連携協定を締結している市内の大学・短期大学において、市政に関する講義等を実施するとともに、学生と市政に関する意見交換等を行い、若い世代の市民参画への意識やまちづくりへの関心を高めている。(鹿児島大学、鹿児島国際大学、志学館大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学の5校で実施、うち、鹿児島大学で市長との意見交換を実施)</p> <p>また、鹿児島大学においては、講義終了後に学生が自ら解決したい課題の講義担当課でインターンシップを実施し、課題に対する提言のブラッシュアップを図るとともに、関係課に対して提言発表を行い、提言の一部(喜入の地域振興策)は、R3年度に実現した。</p>							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>KPIについては、十分に達成されている。</p> <p>R3年度までの取組状況としては、地域人材等の授業への参画、職場体験活動については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施回数や実施期間を縮小して実施したものもあったが、各学校で工夫し、活動内容の充実を図りながら取り組むことができた。</p> <p>「かごしま創志塾」・「ジュニア創志塾」では、国内外で活躍している講師や郷土出身の著名人による講話や郷土に関するフィールドワークやALTとの交流などの体験活動や学習活動を通して、郷土教育やグローバルな視野を広げる学習の充実が図られた。また、塾生同士が郷土への愛着心や誇りを持ち続けるためのネットワーク体制の構築に努めた。</p> <p>これらの取組により、まちづくりの担い手となる人材の育成に向けたふるさと教育の推進が図られた。</p>	<p>郷土教材の活用や地域人材等の授業への参画、職場体験活動については、小学校から高等学校までの各ステージに応じた取組をさらに充実させていく。併せて、アフターコロナを見据えて、対面と非対面のそれぞれの良さを生かした学習活動の構築に努めながら、「ふるさと・鹿児島」への誇りと愛着の心を育む取組を引き続き進める。</p> <p>「かごしま創志塾」・「ジュニア創志塾」については、引き続き魅力あるプログラムを提供するとともに、関係機関・団体等と連携し、深まりのあるプログラムの充実にも努める。また、卒塾生を具体的な活動の場で活用し、SNS等を活用した効果的な情報発信とネットワーク体制の機能化を図る。</p> <p>(本施策の第2期総合戦略における位置づけ) 重点2-(1)ふるさと教育の推進と大学との連携強化</p>



検証会議の意見
<p>KPIについては、ふるさと教育の推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、かごしま創志塾・ジュニア創志塾について、引き続き、卒塾生のフォローアップを行い、ネットワークの形成に努めていただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

重点戦略

(4) 連携中枢都市圏の形成

検証シート総括表 (R3年度)

〔関連する基本目標〕

1. しごとで活力を「つくる」
2. 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」
3. まちの魅力を「みがく」
4. ひと・まちを多彩に「つなぐ」

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	意見 (R3)	R2参考 (実績値)	R2参考 (評価)	根拠統計等
(1) かごしま連携中枢都市圏ビジョンの推進	37	連携事業数	-	27	事業 (7年間)	30	111.1%	a	A	30	a	(市) 事業実績
① 圏域全体の経済成長のけん引												
② 高次の都市機能の集積・強化												
③ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上												

注) *は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

<p><摘要></p> <p>(1) 評価 (KPI)</p> <ul style="list-style-type: none"> a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない 	<p>(2) 検証会議の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	---

〔基本的方向〕

人口減少や高齢化の進行により、地域コミュニティや生活基盤の存続の危機が懸念されています。このような状況下にあっても、地域経済を持続可能なものとし、安心して快適な暮らしを営んでいけるようになるため、人々の暮らしを支え、経済をけん引していくのにふさわしい核となる都市やその圏域を戦略的に形成し、その上で、人々の暮らしを支える行政サービスを提供していく必要があります。地域の活力を持続し、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようになるためには、一定の人口規模の確保だけでなく、地域経済や都市機能、生活関連機能の面においても、日常生活圏を形成する都市間の連携が重要です。県都として、県全体の発展をけん引する役割も担っている本市と周辺自治体との連携を高め、新たに連携中枢都市圏を形成し、活力ある社会経済の維持を目指します。

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

<p>＜摘要＞</p> <p>(1) 評価 (KPI)</p> <p>a : 十分に達成されている</p> <p>b : 概ね達成されている</p> <p>c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見</p> <p>A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである</p> <p>B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある</p> <p>C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R3)	対目標値	評価 (R3)	R2参考 (実績値) 評価
(1) かがしま連携中枢都市圏ビジョンの推進	37	連携事業数	—	27	事業 (7年間)	30	111.1%	a	30
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R3)							a
①圏域全体の経済成長のけん引		産学金官民によるビジョン懇談会や新規創業者等育成支援のための創業スキル養成講座、4市による合同企業説明会、グリーン・ツーリズム日帰り体験ツアーなどを実施した。これらの施策を実施した結果、新規創業者数の増加や資源を生かした観光力の強化などにつながった。また、女性・学生等向けの起業応援セミナー、新商品開発入門セミナー、錦江湾潮風フェスタなどの各市イベント出展等については、新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、実施を見送っている。							
②高次の都市機能の集積・強化		地域医療の連携を推進するための講演会や高度医療機器の整備などを行った。結果として圏域全体の医療サービスの向上につながった。なお、講演会は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、オンライン開催にするなど事業の見直しを図った。							
③圏域全体の生活関連機能サービスの向上		図書館の広域利用や災害時帰宅困難者一時避難施設の追加指定、移住支援、各市が実施する職員研修への相互参加などを実施した。これらの施策を実施した結果、圏域外からの移住者数の増加や圏域職員の人材育成、資質向上につながった。なお、移住支援は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、首都圏での移住相談会への合同参加をオンライン開催に変更するなど見直しを図った。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の達成状況等 (R3年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
<p>KPIについては、十分に達成されている。</p> <p>R3年度までの取組状況としては、4市の幹事会やビジョン懇談会、市長会議を開催し、かがしま連携中枢都市圏ビジョンの適切な進行管理を行うことで、連携中枢都市圏の着実な推進が図られた。</p>	<p>引き続き、連携事業の効果的な実施に取り組むとともに、新たな連携事業の実施に向けて積極的に検討・協議を行うなど、連携中枢都市圏の着実な推進を図る。</p> <p>(本施策の第2期総合戦略における位置づけ)</p> <p>4-(3)-②国内の都市との連携・交流の推進</p>	<p>KPIについては、かがしま連携中枢都市圏ビジョンの推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、本市の役割を明確にした上で、市民の利便性の向上や連携による効果が高い事業に着実に取り組むとともに、市民へのさらなる周知を図っていただきたい。</p> <p>また、KPIについては、今後、第2期総合戦略を推進する中で、施策の効果をもっと把握できる指標を検討していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>